

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	県立のじぎく会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県人権啓発協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃(共用部、会議室、ホール、便所等:毎日)、床面ワックス及びガラス清拭(年1回)	会議室の利用状況に応じ効率的に清掃を実施するなど、業務を安価かつ良好に実施できた。	○	◎
	設備保守管理	電気工作物保守管理(年2回)、エレベーター保守点検(月1回)等を専門業者に依頼し実施	必要な設備保守点検を良好かつ適確に実施した。	◎	◎
	植栽管理	玄関、中庭等の植栽を日常的に管理する	植栽を美しく保つことにより、施設の良好な環境を維持できた。	○	○
	警備	専門業者に警備を依頼	盗難等の被害もなく、警備業務を良好に実施できた。	◎	◎
	小規模修繕	利用者の安全確保等のため不具合を発見次第、迅速に実施	今後とも、設備の状況を把握し、不具合には適切に対応していく。	○	○
	法定点検の実施	非常用電源装置の点検等、法令に従って実施	必要な設備保守点検を良好かつ適確に実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日:祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、開館時間:9時～17時	施設の稼働率増に向けて、今後とも、利用者ニーズの動向を踏まえながら検討する。	○	○
	公共性・公平性の確保	業務実施において、特に中立性、公平性、公正性の確保に留意	業務実施において、公平性、公正性の確保に留意し、良好に実施できた。	○	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	指定管理協定に基づき人権に関する研修、啓発、研究を行い、会館施設の維持管理を実施する。	研修:県職員、市町職員研修、企業人権研修、住民研修への講師派遣等を実施した。 啓発:「ひょうご・ヒューマンフェスティバル」、「人権のつどい」の実施、情報誌「きずな」の発行等を実施した。 研究:協会設立30周年記念誌の作成等を実施した。	○	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	年1回会館利用者にアンケートを実施	アンケート結果を施設の環境整備に反映させている。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用 状況	利用者数	27,557人 [前年度:28,083人]	Wi-Fi 完全整備等、会館の利便性についての PR を推進し、コロナ禍で落ち込んだ利用者数向上を目指す。	○	○
	施設稼働率	32.6%[前年度:32.6%]	同上	○	○
収支 状況	収支計画と実績	指定管理料:6,654千円 利用料金収入:14,384千円	指定管理料:9,448千円 利用料金収入:13,116千円	○	○
	経費節減に向けた取組	光熱水費、コピー代等節約の徹底	館内廊下の電灯の間引き等による光熱水費の節約、事務用品等の節約を徹底した。	○	◎
運営 体制	苦情要望等の対応体制・内容	会館利用に関する様々な要望(開閉館の時間、荷物の一時預かり等)について、協会全体として統一した対応を実施	対応可能なものについては、その都度きめ細やかに対応した。	○	◎
	危機管理体制の確保	自然災害(地震、台風等)や事故災害(火災、けが、急病等)の発生に備え、のじぎく会館利用者の安全を確保するため、危機管理マニュアルを策定し、危機管理体制を構築している。 ・消防訓練の実施(9月、2月) 危機管理時の連絡体制、マニュアルを整備	災害等発生時に利用者の安全確保を最優先にして適切に行動できるよう、危機管理面、安全面の対応体制を確保していく。	○	○
	県・関係機関との連携	利用状況等について県所管課と情報交換等を密にし、県関係機関の利用促進や各種事業を県との連携強化を図りながら推進した。	県との連携により、会館利用促進や事業充実を図ることができた。	○	◎
	業務の再委託の状況	専門的なスキル・技術を要する会館管理業務について再委託を実施	適切な再委託により、効率的な会館管理・運営を実施することができた。	○	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

適切な清掃・保守管理業務等による良好な施設環境の維持、利用者へのサービス向上、企画展示等施設の有効活用、安定した利用者数・利用率・利用料金収入の確保に努め、経費節約等も実施した結果、コロナ禍ではあるが概ね良好に業務を実施した。次年度も引き続き適切な管理運営に努めたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部総務課

施設名	県立のじぎく会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県人権啓発協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

※「協会」＝指定管理者である(公財)兵庫県人権啓発協会

○利用率の向上と利用料金収入の確保

・利用率は、平成18年度34.7%→平成19年度36.8%→平成20年度34.0%→平成21年度32.2%→平成22年度18%(耐震改修のため10ヶ月閉館)→平成23年度28%→平成24年度32.1%→平成25年度31.6%→平成26年度32.9%→平成27年度36.5%→平成28年度33.5%→平成29年度34.2%→平成30年度36.3%→令和元年度34.0%→令和2年度32.6%→令和3年度29.6%となっている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減少しており、今後は館内Wi-Fiを活用したオンライン会議での利用や、3密回避のための作業スペースとしての会議室利用などをPRし、利用率の維持に努めたい。

・利用料金収入金額についても、協会の営業努力により、平成16年度8百万円に対し、平成23年度以降は10～14百万円(23年度10,243千円→24年度12,366千円→25年度12,449千円→26年度12,718千円→27年度14,491千円→28年度12,847千円→29年度13,359千円→30年度14,241千円→令和元年度14,843千円→令和2年度15,992千円→令和3年度13,116千円)と安定した収入の確保が図られていると評価できる。

○効率的な維持管理と経費削減

・施設維持管理費については、平成17年度33,308千円→平成18年度30,778千円→平成19年度28,157千円→平成20年度25,835千円→平成21年度24,827千円→平成22年度18,340千円(うち15,637千円は耐震改修に伴う事務所移転経費等)→平成23年度19,304千円→平成24年度16,861千円→平成25年度16,811千円→平成26年度16,426千円→27年度18,593千円(ロビーチェア等を更新)→28年度16,781千円→29年度16,653千円→30年度17,725千円→令和元年度17,244千円→令和2年度18,719千円→令和3年度16,106千円(コロナ対策として、館内の日常的な消毒作業を昨年度に引き続き実施)と概ね着実な削減が図られていると評価できる。

○サービスの向上

・平成22年度の耐震改修工事に伴う施設・設備のリニューアルもあり、平成24年度以降毎年実施している利用者アンケートの結果でも、施設・設備や職員の対応等に対する不満は少なく、日常的に利用者へ丁寧な対応を心がけているものと評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○利用率の向上と利用料金収入の確保

・今後とも料金の安さ等を十分にPRし利用促進を図り、利用率の向上と安定的収入の確保を図るよう指導していく。

○効率的な維持管理と経費削減

・今後とも総合管理委託等について安価かつ良質な外部委託業務の執行を確保するとともに、光熱水費については常に節約に心がけるなど維持管理費の効率的執行を図るよう指導していく。

○サービスの向上

今後とも利用者の声を踏まえ、一層のサービス向上を図るよう指導していく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A				

総合評価指標（管理運営評価シート of 施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立丹波の森公苑	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物内の日常清掃、定期清掃(床・窓ガラス)を行い、美観を保つ。	日常清掃は毎日実施し、定期清掃(床ワックスがけ、窓ガラス)は年4回実施、蜘蛛の巣とりは年2回実施	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降・電話設備及びホール設備等の保守並びに空気環境・水質・害虫等の衛生管理を行う。	日常点検は週2回程度実施し、専門的な保守点検は月1回実施した。	◎	◎
	植栽管理	敷地内の除草・剪定、樹木管理等を行い、美観を保つ。	親水河川等の除草は業者に委託(年1回実施)したほか、森づくりスタッフによる里山管理、日本庭園など専門的な管理が必要な所を含め芝生広場も地域住民や職員による草刈りを実施(随時)し、経費の節減に努めた。	◎	◎
	警備	時間外の安全確保のため施設全体の警備を行うとともに、大きなイベント開催時の安全確保のため駐車場管理を行う。	機械警備は、夜間休日について警備会社に委託。利用者が多い時(丹波の森フェスティバル)は、駐車場の整理を委託。	◎	◎
	小規模修繕	施設設備が適切、良好に利用できるように、修繕を行う。	日常点検、保守点検等により異常が見つかった場合、可能な限りすみやかに修繕を実施した。 【実施内容】 ブラインド取替、トイレ配管修理、誘導灯取替、スプリンクラー配管漏水修理、階段手すり修理、扉ストッパー取替、バリカー取替、駐車場舗装改良、テニスコート補修、自動ドア修理、Wi-Fi 中継器交換、照明設備取替、防火ドア取替、消防設備修繕、ガスボンベ調整器取替、天井塗装	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	法定点検の実施	ビル衛生管理法に基づく特定建築物の環境衛生管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・空気環境 :年 6 回 ・供給水残留塩素等:週 1 回 ・供給水水質 :年 2 回 ・受水槽 :年 1 回 ・排水設備 :月 1 回 ・ねずみ・昆虫防除 :月 1 回 ・冷却塔レジオネラ菌 :年 1 回 	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	【開苑時間】 9:00～22:00 【休苑日】 月曜日 (祝日の場合翌日) 12月31日、1月1日	生活創造センターの設置及び管理に関する条例どおりに開館した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	統一的な基準により、施設の貸館業務を行う。	生活創造センターの設置及び管理に関する条例に基づき、統一的な貸館業務を実施した。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	丹波地域のすべての人々が緑豊かな自然の中で、自己を高め、グループ活動を支援できる事業を行う。	魅力ある地域づくり、地域活動の支援、生涯学習の場の提供、芸術文化活動の支援等を行った。 【指定管理業務】 ・丹波の森公苑運営委員会 運営事業(R4.3.3 開催) ・「丹波の森」情報発信事業 ホームページ、フェイスブック等を随時更新 ・講座「丹波学」開催等事業 「丹波ゆかりの人ともの～丹波史研究の最前線～」をテーマに 5 回開催 ・生活創造活動支援事業 生活創造活動グループサポート事業によるイベント支援(9 回)、消費生活出前講座(7 回)、消費生活にゆーすの発行(4 回) ・展示ギャラリーの開設 写真展、絵画展など 23 件利用 ・伝統文化活性化支援事業 子どもたちのための和楽器鑑賞会を丹波地域内の小学校特別支援学校 9 校で実施 【自主事業】 ・花づくり活動支援事業 ・丹波の森フェスティバル開催 ・里山ボランティア養成事業 ・オオムラサキの舞う里山づくり ・地域高齢者大学・大学院の設置 ・丹波の森子どもミュージカル体験塾の開催 ・丹波の森国際音楽祭の開催 ・ホール自主事業 ・丹波の森アートフェスティバルの開催 ・丹波地域学ぶ高齢者のつどい ・トライやる・ウィーク受入 ・芸術文化団体活動新事業	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対し、丹波の森公苑について、ハード・ソフト両面からアンケートを実施する。	「森公苑利用の理由」「利用の感想」「森公苑の情報発信」等について、下記の来苑者計 247 人にアンケートを実施した。 ①ホール・会議室等有料施設利用者 ②有料施設利用の主催者 ③一般の来苑者(グループ活動コーナー、屋外利用者、丹波の森フェスティバル)	◎	◎
利用状況	利用者数	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度:38,056 人]	令和3年度の施設利用者は50,643人で前年比133.1%となった。	○	○
	施設稼働率	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度] ホール 9% 会議室 17% グラウンド 34% テニスコート 28%	新型コロナウイルス感染症対策による休館日が前年度より減少し、制限が緩和されたこと等により、稼働率は概ね増加した。 [ホール 13%、会議室 20%、グラウンド 30%、テニスコート 28%]	○	○
収支状況	収支計画と実績	【収入(単位:千円)】 利用料金収入 11,870 指定管理料 127,800 その他収入 1,302 <u>合計 140,972</u> 【支出(単位:千円)】 人件費支出 70,681 維持管理費 66,608 事業運営費 3,683 <u>合計 140,972</u>	【収入(単位:千円)】 利用料金収入 8,805 指定管理料 139,768 その他収入 14,584 <u>合計 163,157</u> 【支出(単位:千円)】 人件費支出 77,510 維持運営費 76,405 事業運営費 9,242 <u>合計 163,157</u>	○	○
	経費節減に向けた取組	最小の経費で最大の効果をもたせるよう努める。	経費節減に向けた取組の継続を毎月2回開催する幹部会議で徹底するとともに、市民ボランティアや職員が協働で草刈り等の環境整備を3回実施した他、日常管理の中で職員が実施するなど、業者発注の回数を縮減した。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情・要望については、真摯に話を聞き、調査対応にあたる。	来苑者、利用者から寄せられる苦情、要望については、可能な範囲で速やかに対応している。 また、投書箱やアンケートに自由意見や要望を記入できる欄も設けている。 ・トイレの水漏れ →その都度すみやかに修理対応 ・空調の効きが悪い →電力デマンドのコントロールのため、説明、理解を得ている。 ・テニスコートの水はけが悪い →R4 改修工事实施予定 ・地元自治会、近隣住民からの溝清掃、草刈、樹木伐採等の要望 →職員で対応できるものは即日対応 し、外部委託が必要なものもできるだけ速やかに発注している	◎	◎
	危機管理体制の確保	「丹波の森公苑災害対応マニュアル」「丹波の森公苑消防計画」により対応する。	消防及び避難訓練を年2回実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県・関係機関と連絡を密にし、双方最新の情報を得るよう対処する。	所管課とは、電話・メールにより頻繁に連絡をとっている。	◎	◎
	業務の再委託の状況	効率性、合理性等の観点から専門的業務を外部に委託する。	設備保守管理 清掃 ホール運営 ホール舞台機構設備保守 機械警備 自家用電気工作物保安管理 電話交換設備保守 エレベーター保守 障害者用昇降設備保守 自動ドア保守 コンピュータネットワーク保守 コンピュータセキュリティ保守 廃棄物処分 除草・樹木伐採	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

地元自治体と地域住民が一体となって、丹波地域づくりの共通理念である「丹波の森構想」を実現するための施設として、丹波の地域づくり、人づくりを推進する事業を展開できている。

来年度についても、幅広い世代が取り組む多様な分野の学習、交流、地域づくり等の活動を支援していく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部県民生活課

施設名	兵庫県立丹波の森公苑	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・各項目において、事業計画に基づき、適切に業務が実施されている。
- ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少への対応や変則的な運営に対応を要した1年間であった。そのような中、施設の管理面では、修繕箇所への適切な対応を行うなど、県民が快適に施設を利用できるように対応を行ったほか、各種事業の実施にあたり、感染対策を実施するなどの創意工夫による利用者数の増加を図った点について、評価ができる。
- ・利用者アンケートにおいても、概ね高い評価をいただいております、その面からも施設の維持管理状態や、利用者へのサービス提供は良好であると考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

施設運営での創意工夫による利用者数の増加に一定の兆しは見られるものの、新型コロナウイルスの影響は、色濃く残っているため、さらなる利用者増加に向けた取組みや施設の効率・効果的な運営を図るよう指導を行った。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	嬉野台生涯教育センター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	利用者に快適な環境を提供するため、点検及び清掃を徹底する。	委託業者により日常清掃(館内、館外)、定期清掃(ワックス掛け等)作業を実施し、快適な環境維持に努めた。	◎	◎
	設備保守管理	利用者の安全確保のため、施設整備及び設備保守を行い、維持管理に努める	委託業者により、浄化槽、空調、消防設備等について、施設利用に支障のないよう定期点検を実施した。	◎	◎
	植栽管理	敷地内の樹木の管理及び雑草等の管理を適切に行う。	業者による剪定及び清掃職員による雑草駆除、職員による草刈りを複数回実施した。	◎	◎
	警備	利用者の安全確保のため、施設内の巡視や施錠の徹底を行う。	職員による巡視に加え、館内出入口に機械警備を取り入れ、利用者の安全確保に取り組んでいる。	◎	◎
	小規模修繕	利用者の利便性・安全性・快適性を確保するため、現状の把握及び迅速な対応に努める	青少年宿泊棟の給水管修繕工事、消火栓ポンプ取替工事等を行った。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽 11 条検査 年 1 回 簡易専用水道検査 年 1 回 消防設備点検 年 2 回 防火対象物点検 年 1 回	計画通りに実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休館日 12 月 30 日～ 1 月 2 日 ・開館時間 午前 9 時～ 午後 9 時	緊急事態宣言発令による閉館(4/25～5/11)以外は、計画通り開館した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	県民に対して、公平に利用いただくため、受付業務の透明化に努める。	パンフレットを更新し広報活動を行うとともに、誰にでも公平でわかりやすいきめ細やかな対応に心掛けている。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者へアンケートを実施し、利用者満足度を調査することにより、事業計画や施設運営に、役立てる。	実施期間:令和3年10月1日～令和3年12月28日 【活動内容の集計結果】 満足 71% やや満足 15% やや不満 2% 不満 1% 回答なし 11%	○	○
	利用者数	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度:40,474人] 【内訳】(人) 本館研修室等 10,553 講堂・視聴覚室 3,938 体育館 8,347 スポーツ広場 5,262 テニスコート 2,258 体験学習棟 924 キャンプ場 1,412 生活創造プラザ 5,680 青少年宿泊棟 1,535 成人宿泊棟 565	R3年度 67,745人 【内訳】(人) 本館研修室等 14,342 講堂・視聴覚室 8,056 体育館 10,505 スポーツ広場 8,764 テニスコート 2,834 体験学習棟 1,960 キャンプ場 3,801 生活創造プラザ 8,040 青少年宿泊棟 7,434 成人宿泊棟 2,009	○	○
利用状況	施設稼働率	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度:7.9%] 【内訳】(%) 本館研修室等 6.6 講堂・視聴覚室 4.4 体育館 24.0 スポーツ広場 10.2 テニスコート 14.8 体験学習棟 2.6 キャンプ場 2.7 青少年宿泊棟 1.3 成人宿泊棟 3.4	R3年度 12.7% 【内訳】(%) 本館研修室等 7.7 講堂・視聴覚室 9.1 体育館 29.3 スポーツ広場 11.6 テニスコート 22.4 体験学習棟 5.8 キャンプ場 11.5 青少年宿泊棟 5.6 成人宿泊棟 11.6	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	収支計画(単位 千円) <収入> 施設利用収入 16,341 補助金等収入 92,830 (うち指定管理料: 91,810) 負担金収入 2,800 収入計 111,971 <支出> 管理受託事業 109,453 その他受託事業 680 補助事業 1,838 支出計 111,971	収支実績(単位 千円) <収入> 施設利用収入 7,196 補助金等収入 100,479 (うち指定管理料: 98,848) 寄付金 10 負担金収入 1,988 収入計 109,673 <支出> 管理受託事業 107,357 その他受託事業 0 補助事業 2,316 支出計 109,673	○	△
	経費節減に向けた取組	経費を節減しつつ効果を得られるよう創意工夫を行う。	委託業務に係る設備保守点検及び清掃業務等において、必要最低限の業務内容とし、経費節減に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の個々の状況を把握し、適切な対応に努める。	【要望】 成人食堂が利用できるようにしてほしい。 【対応】 利用しやすくなるよう成人食堂のあり方を検討していく。	○	○
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアル、職員連絡網を作成するとともに、消防訓練、避難誘導訓練を行う。	計画通り、マニュアル等を作成し、消防訓練、避難誘導訓練を行った。	◎	◎
	県・関係機関との連携	生涯学習の拠点施設として、各機関との連携を強化する。	教育機関や文化団体等の関係機関との連携を密にし、拠点施設としての役割に努める。	◎	◎
	業務の再委託の状況	施設管理に関する業務の一部を委託する。	【再委託の内容】 ・汚水処理浄化槽維持管理業務 ・清掃業務 ・空調機器保守点検整備業務 ・自家用電気工作物保安業務及びデマンド監視業務 ・一般廃棄物処理業務 ・エレベーター保守管理業務 ・消防設備点検及び保守業務 ・夜間等機械警備業務	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

概ね計画通りに実施することができたと考える。

また、アンケートから、利用者からは概ね満足いただけていると思われる。

今後の課題は、新型コロナウイルス感染症により減少している利用者数をコロナ前の水準へ戻るようにしていくことと考える。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部県民生活課

施設名	兵庫県立嬉野台生涯教育センター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 上記それぞれの項目において、事業計画に基づき適切に業務が実施されている。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により、変則的な運営や利用者対応に配慮を要した1年であったが、施設の管理・運営業務全体を通して、県民が快適に利用できるよう迅速な対応と効率的な運用が実現できた点について評価できる。
- ・ 利用者アンケートにおいても、概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・ 前年度に比べると利用者数・稼働率は増加しているが、全体の稼働率を見ると12.7%と、高いとは言えない数字である。
また、利用料金収入が計画の半分に満たない状況にあり、県や法人からの補填を受けて運営を行っている。
このため、ニーズを踏まえた利用者の確保に積極的に取り組む必要がある。
- ・ 引き続き、施設のPRや多様な事業の実施に努めるとともに、効率的・効果的な運営を図るよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	神戸生活創造センター	現指定管理期間	令和元年～3年(3年間)
指定管理者	大阪ガスビジネスクリエイト株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃の実施	日常的(開館前、施設利用後の随時)に施設および設備の点検と清掃(消毒含む)を実施した。	◎	◎
	設備保守管理	備品庫の湿度管理	除湿機により温度・湿度管理を行い、かびの発生を抑制した。	◎	◎
	植栽管理	-	-	-	-
	警備	機械警備の実施	閉館時間中は庁舎機械警備による警備を実施した。	◎	◎
	小規模修繕	ギャラリー壁面の維持管理	剥離等を補修した。	○	○
	法定点検の実施	庁舎管理者において行う点検の確実な実施	諸点検(電気・消防等、空気環境測定含む)を実施した。	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	「設置および管理に関する条例」および協定等に定める内容を遵守し、管理運営を行う。	【開館時間】 月～土 9時～21時 日・祝 9時～17時30分 【休館】毎月第3水曜日 【臨時休館】 4月25日～5月11日 (感染拡大防止) 12月30日、1月1日 (施設設備点検) 1月4日 (蔵書点検、有料のみ開館)	◎	◎
	公共性・公平性の確保	平等、公平かつ公正な利用機会の提供	・利用申込受付開始初日は公平を期するため抽選による利用受付を実施した。 ・運用規則および利用規則を遵守し、すべての利用者に対し、平等で快適な利用環境を提供した。 ・ホームページ、館内掲示等により、施設利用案内、空室状況等を随時発信した。	◎	◎

<p>運営業務</p>	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>①生活情報の更なる収集・発信 ②グループ・団体活動支援充実 ③学習機会の提供 ④神戸阪神地域の活動支援施設との協働 ⑤自主事業の充実</p>	<p>①生活情報 ・図書…書籍の計画的な購入、利用者からの寄贈書籍を活用。 実績(前年比) 蔵書+471 冊 貸出+2,835 冊 利用者数+10,497 名 ・発信…情報紙ピピン/月 4,000 部発行(5 月のみ休刊)。メンバー募集中の登録グループの情報などを掲載。 ②活動支援 ・グループ活動セミナー…年間 15 事業(他 5 事業中止) ・「ZOOM 初心者セミナー」…非対面でも活動可能な環境を整え、グループ活動の再起動を促す。 ・若年層グループ 13 団体登録…神戸野田高校生徒会、部活動の登録を得た。次年度事業開催予定。 ③学習機会の提供 ・公共機関連携講座「気軽にアート」…協力: 県立美術館、4 回 ・登録グループ連携講座「自然環境体験セミナー」…展示のみ実施 ・地域活動者との連携事業「キムジャン体験会」…共催: アートによる地域活性化を目的に活動する団体 ・センター事業「神戸のんびり読書会」…9 回、センタースタッフがファシリテーターとなり、参加者がおすすめの一冊を紹介し、参加者同士の情報交換、交流を楽しむ。ほか 1 事業 ④活動支援施設との協働 ・「子育てひろば baby きらきら」…共催: 県立男女共同参画センター、市地域子育て応援プラザ中央、市地域子育て支援センター兵庫 ・「子育てひろば きらきら」…共催: 市地域子育て応援プラザ長田 ・「離乳食セミナー」…共催: 市</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>
-------------	------------------------	---	---	----------	----------

			<p>地域子育て応援プラザ長田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バルーンパフォーマンスショー」…共催:神戸県民センター、県青少年本部神戸事務局 ・「日本遺産講座」…共催:神戸県民センター ・「すこやかまつり in 尼が咲き」…主催:尼崎市立すこやかプラザ ・「第2回芸術の杜 神戸長田文化賞歴代受賞者展」…共催:実行委員会 <p>⑤自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プリザーブドフラワーアレンジメント」「フルーツカッティング」「ピラティス」ほか 		
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者満足度向上	<p>対象者:全利用者 実施期間:2月14日～3月8日 回答数:192 採点方式: 4点=たいへん満足 3点=ほぼ満足 2点=やや不満 1点=大いに不満</p> <p>総合評価:3.4</p> <p>内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報提供:3.1 利用申請・手続き:3.3 利用条件:3.4 設置条件:3.4 利用可能時間:3.4 利用料金:3.1 施設/設備:3.2 サービス:3.3 スタッフ:3.5 	◎	◎
利用状況	利用者数	130,000人 [前年度実績:71,099人]	97,632人(前年比26,533人)	△	△
	施設稼働率	スタジオ A・B:75.0% 講座研修室 A・B:50.0% キッチン:35.0% 展示ギャラリー:65.0% [前年度実績] スタジオ A・B:40.9% 講座研修室 A・B:23.3% キッチン:13.4% 展示ギャラリー:44.4%	スタジオ A・B:59.2% 講座研修室 A・B:26.5% キッチン:32.9% 展示ギャラリー:60.1%	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
支 状 況	収支計画と実績	計画(税込:円) 収入 50,149,000 指定管理料 41,708,000 利用料金 7,141,000 自主事業 650,000 その他 650,000 支出 50,149,000	実績(税込:円) 収入 48,980,281 指定管理料 44,026,000 利用料金 3,521,650 自主事業 1,182,221 その他 250,410 支出 48,795,584	○	○
	経費節減に向けた取組	・適正運用(照明、空調) ・日常点検(設備・備品) による予防保全	・利用状況に応じ、適宜入切 および温度調整を行った。 ・日常点検により発見した傷み などは、メンテナンスを行っ た。	○	◎
運 営 体 制	苦情要望等の 対応体制・内容	・迅速に情報共有、かつ関 係各所と協議し、的確に 対応する。	・利用者からの意見や苦情に ついては、現場責任者および 指定管理者本社がバックア ップし、解決を図った。事例は関 係各所、本社、現場にて共有 し、再発防止に努めた。	○	◎
	危機管理体制の確保	・危機管理マニュアルおよ び緊急連絡網、緊急体制 の整備 ・避難・防災訓練の実施	・整備し、随時更新した。 ・庁舎としての訓練は実施され なかったため、非常時対応資 料を回覧し、避難時対応の再 確認を行った。	○	○
	県・関係機関との連携	・神戸・阪神間における県 および関係機関とのネット ワークの継続 ・新長田周辺の施設や関係 機関、各種団体との連携 体制の構築	・会議への出席(新長田合同庁 舎連携会議) ・事業連携(長田区まちづくり 課、1回) ・情報交換・収集(神戸阪神間 の公共施設や地域活動団体と の情報交換を随時行い、地域 情報、活動支援情報の収集を 図った。(ふたば学舎、神戸国 際コミュニティセンター等)	◎	○
	業務の再委託の状況	-	-	-	-

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

4月下旬から5月にかけての臨時休館を経て、なかなかコロナ禍の収束が見通せないなか、来られた方に快適な利用環境を提供できるように努めた。アンケートによる評価も高いレベルで維持しており(昨年度比0.1ポイント増)、引き続き安全安心で快適な環境を提供していけるように努めていく。

グループ活動は、第4四半期頃から徐々に再開が見られ、近隣の高校の生徒会や部活動の登録までこぎつけることができた。次年度にかけての好材料である。

新規利用者が当センターを何で知ったかなどのヒアリングやチラシ配架場所の開拓など、有料施設の積極的なPRも行っており、引き続き稼働率上昇対策に取り組んでいく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：神戸県民センター県民交流室

施設名	神戸生活創造センター	現指定管理期間	令和元年～3年（3年間）
指定管理者	大阪ガスビジネスクリエイト株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

当センターは、神戸・阪神地域における芸術文化、環境、健康、福祉等の様々な分野にわたる県民の主体的な生活創造活動の拠点施設として、毎年10万人以上の利用がある。令和3年度は前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、閉館や時短を行っていたにもかかわらず、9万人以上の来館者があり、閉館中も県民から再開に向けた問い合わせが多数寄せられるなど、必要性は高い。令和3年度は、前年度に引き続き年間通じて新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、稼働率や来館者数で導入効果を量ることは困難であるが、感染防止対策を講じつつセンターの管理運営を行い、コロナ解消後に向けて利用促進方策も検討しており、高い効果が期待できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

新型コロナウイルスの影響により、変則的な運営や利用対応に配慮を要した1年であったが、施設の管理・運営業務全体を通して、迅速な対応と効率的な運営を実現できている点について評価できる。有料施設（スタジオ、講座研修室、キッチン、展示ギャラリー）の稼働率及びそれに伴う利用料収入については、目標を大きく下回り、利用者数も目標の75%程度の達成率となったが、これはセンターの移転により地理的な利便性が失われたこと及び新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休館や利用制限によるものである。新型コロナウイルス感染者数が劇的に減っている現在、利用者増に向けては既存の方法にとらわれないものを企画立案する必要がある。例えば、キッチンを会食のみで利用する場合、キッチンの設備を利用しないことを踏まえて利用料を抑える等、コロナ禍での気づきについてもポストコロナに向けて生かしていく必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
		A		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 3 年度 管理運営評価シート

施設名	東播磨生活創造センター かこむ	現指定管理期間	令和 3 年～7 年(5 年間)
指定管理者	特定非営利活動法人シミンズシーズ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所 管 課
維持 管理 業務	清掃	有料施設及び無料施設の 日常清掃を最低限1日1回 実施する	<p><開館中の実施> 有料施設・無料施設の点検、清掃は、施設利用時に都度、行っている。フリースペース等の不特定多数が利用する施設は、職員での除菌・清掃をはじめ、利用者が除菌・清掃できるよう掃除道具一式を配置しており、利用者への清掃・感染症予防の協力を促している。また、例年「かこむ」大掃除週間を企画しており、利用者とともに年末大掃除を行なっている。</p> <p><閉館後の実施> 施設の戸締まり、忘れ物確認、情報コーナー、フリースペースの清掃と消毒作業、最終点検を実施している。職員による点検を1日1回以上行い、利用者も含めた清掃を行うことで安全に利用できる施設整備に取り組んでいる。</p>	◎	◎
	設備保守管理	劣化や危険な箇所がないか等、日常的に巡視	<p><随時> 窓口で利用者の声の聞き取りをはじめ、連絡ノートを活用し、日々の改善に取り組んでいる。設備、備品の利用状況も確認しており、定期点検を実施。指定管理者として、利用者との連絡手段を工夫し、常時利用者</p>	○	○

		<p>が安全に利用できる維持管理を継続して行なった。</p> <p>設備保守管理は、県民局担当課との定例会議を設けており、速やかな情報共有と報告を行い、保守管理の徹底に努めている。</p> <p><年間> 施設利用者を対象に、年1回の利用状況アンケートを実施し、その結果を県民局担当課にも報告し、改善策を協議している。</p>		
植栽管理	—	—	—	—
警備	安全巡視、緊急時における連絡及び対応体制を整備。	<p><体制整備> 通常時やイベント時における緊急時の相談、報告の連絡体制を整備している。また、緊急時や災害時などを想定し曜日ごとに運営責任者を常駐する体制をとり、職員向けの緊急時マニュアルを都度更新して共有している。</p> <p><職員研修> 開館中は安全巡視、定期パトロールを実施。消火機器の点検や避難経路の確保、防火シャッターや消火栓が機能する確認を行なった。</p>	○	○
小規模修繕	施設の不備を確認した際には速やかに修繕に対応	<p><備品修繕> 講座研修室机、椅子、マイクスタンド、譜面台など、軽微な修繕、備品修理を実施している。また、利用者より寄贈による代替品の提供を募り、コストを削減しながら、備品の調整を行なっている。</p>	◎	◎
法定点検の実施	—	—	—	—

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所 管 課
運営 業務	開館日・開館時間等	開館日:1月2日～12月30日、 (ただし、毎月第3日曜日は休館) 開館時間:9時～21時 (ただし、日・祝は9時～17時30分)	<p><基礎運営> 開館時間については、社会的意義や地域の役割をふまえ、可能な限り利用者の実態に即して対応。休館日には職員研修を実施している。</p> <p><コロナ対応> 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言発令を受け、兵庫県の方針に従い迅速に対応した。また利用者への混乱を避けるため、簡潔で迅速な情報発信を行い、利用者目線を心掛けた寄り添った対応を行った。</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守した公平公正な運営 ・情報公開による開かれた運営 	<p><法令遵守> 関係法令を順守した運営に努めた。施設予約においては、公開抽選を行い、公平・公正な施設利用ができるよう工夫している。</p> <p><情報公開> 利用規則を遵守し、利用者に向けて案内及びお知らせとして情報開示を行なった。窓口案内、館内掲示、ホームページによる情報発信手段を活用。全ての利用者に対し公平な運営に努めた。</p> <p><その他 公平な運営> 幅広い年齢層の利用者が利用できるよう、「対面・電話・ホームページ」の申込方法を設けることで、利用の機会を公平に提供することを心掛けた。ホームページからの申込みに対しては、申込時間と確認時間での差異が発生しないよう、定期的に申込み有無の確認をし、他の申込方法と差異がうまれないよう対応処理を工夫している。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所 管 課
運 営 業 務	各種事業・プログラムの 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・情報コーナーの運営 ・グループ活動支援 ・学習機会の提供 ・協働事業 ・自主事業 	<p><情報コーナーの運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌の発行:年 4 回 / 12,044 部 (前年実績 12,000 部 前年差 +44 部) ・ホームページでの情報提供:147 件 (前年実績 141 件 前年差 +6 件) ・チラシ配架件数:1,503 件 ・図書等の貸出件数:1,698 件 ・寄贈本数:1,377 冊 <p><グループ活動支援 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・kaco-LAB.の登録団体:団体 333 団体 (内訳) 地域活動団体:310 団体、クリエイター15 団体、企業 8 団体 (前年実績 328 団体 前年差 +5 団体) ・相談件数:76,403 件 (前年実績 72,179 件 前年差 +4,224 件) ・コーディネート件数:98 件 (前年実績 77 件 前年差 +21 件) ・多目的パフォーマンススペース運営:139 回 (前年実績 110 回 前年差 +29 回) <p><協働事業の企画・実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業の実施:146 回 (前年実績 30 回 前年差 +116 回) ・東ハリマ豊かサミットの開催:参加者 90 名(うち、オンライン参加者数 55 名) ・多目的パフォーマンススペースを活用した会場活用の協力として、シニア交流サロン、いなみ野ため池ミュージアム運営協議会の表彰式 	○	○

			<p>サポートを行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元コミュニティラジオとの協働:41回 (前年実績 44 回 前年差▲3 回) ・トライやるウィーク、インターン、職業訓練等の受入 15 回/23 名 (前年実績 17 回/26 名 前年差▲2 回/▲3 名) <p><学習機会の提供・自主事業の実施業務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座、セミナー等の開催: 144 回/691 名 (前年実績 99 回/819 名 前年差+45 回/▲128 名) ※例年開催の「ごちゃまぜ交流会」はコロナ禍のため開催を中止。 <p><学習機会の提供・地域リーダーの育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域リーダーの人材育成事業:174 回/622 名 (前年実績 13 回/92 名 前年差+161 回/+530 名) ・ボランティアの登録:36 名 (前年実績 44 名 前年差▲8 名) ・かこむ審議会/年 1 回実施 (出席者17名) <p>近隣施設の事例共有をご紹介頂き、有識者のみなさまと今後の運営に関して意見交換を行った。 (オンラインによる開催)</p>		
利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者を対象とした 満足度アンケート調査を 年1回実施		<p><アンケート結果> 実施期間:11 月 20 日~12 月 21 日 (第 3 日曜日を除く開館日数:30 日間)</p> <p>回収枚数:861 枚(前年度実績 1,015 枚 ▲154 枚)</p> <p><アンケート結果> 総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に満足、満足:97.8% 施設の清掃に関する満足度 ・非常に満足、満足:97.6% 	◎	◎

			<p>スタッフ対応に関する満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に親切、親切:98.2% 利用後の関係に関する調査 ・挨拶する程度の知り合いが増えた:41.6% ・よく話す知り合いが増えた:11.2% ・一緒に活動する友達・知り合いが増えた:34.1% <p>その他、東ハリマくらし学校の企画について、コロナ禍における施設運営についてなどの調査項目を設けて、事業に関するアンケートにも取り組んだ。</p>		
利用状況	利用者数	—	<p>実績:156,310人 (前年度:159,120人 前年差 ▲2,810人)</p> <p>コロナ禍における移動人口の減少により来館者数は前年より減少。他方、オンラインを活用した活動への参加や支援が増加した。</p>	○	△
	施設稼働率	計画 65.0%	<p>実績:64.1% (前年度:59.0% 前年差+5.1%)</p> <p>近隣施設の閉鎖や利用制限によって、年間稼働率は改善傾向にある。</p>	○	○
収支状況	収支計画と実績	<p>収支計画</p> <p><収入> 合計:38,054千円 指定管理料:26,654千円 利用料収入:8,800千円 自主事業収入:2,600千円</p> <p><支出> 合計:38,054千円 人件費:28,288千円 事業費:2,040千円 維持管理費:2,400千円 事務費:1,683千円 感染防止経費:500千円 消費税:3,143千円</p>	<p>実績</p> <p><収入> 合計:38,372千円 指定管理料:26,966千円 利用料収入:8,077千円 自主事業収入:994千円 法人負担 2,335千円</p> <p><支出> 合計:38,372千円 人件費:28,273千円 事業費:1,279千円 維持管理費:3,253千円 事務費:2,585千円 消費税:2,982千円</p> <p>備品の老朽化による備品の</p>	○	○

			故障が増加している。代用品や利用者からの寄贈により修繕経費の削減によって、維持管理費を抑える工夫を行っている。		
	経費節減に向けた取組	利用者からの寄贈を含めた備品管理	施設点検時に職員による空調の説明と確認や、施設内に電力削減協力の張り紙で意識啓発を行い、庁舎管理の空調温度設定に協力して行っている。 なお、利用者からの多数の備品消耗品の寄贈の受け入れや、ボランティアによる施設修繕にも取り組んでいる。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情と改善策を職員間で共有。庁舎全体に関する苦情には県担当課へ報告	<p><年間> 施設利用者に向けた利用状況アンケート集計を年1回実施。</p> <p><随時> 窓口での利用者の声の聞き取りを実施。連絡ノートを活用し、苦情や要望、利用者の声を把握している。また、職員間での運営ツールを活用して情報を蓄積して管理、対応している。指定管理者として解決できる苦情・要望・利用者の声については、速やかに対応、対策を講じている。</p> <p>苦情、利用者の声及び対応はデータで集約し、県民局担当課と報告相談を行った上で、迅速な対応に努めている。利用規則や設備に関しての声も同様に、県民局担当課と協議、検討する対応を実施した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者に向けた安全管理の徹底 防犯や災害、緊急時の際の対策を講じる。 	開館中は安全巡視、定期パトロールを実施している。運営スタッフ内における緊急マニュアルの共有も行なっている。また、管理責任者、副責任者は庁内消防訓練に参加し、研修内において避難経路など誘導手順の確認を行なった。施設内にお	◎	◎

			ける災害事故対策マニュアルも設置している。		
			緊急マニュアルを更新し、迅速に対応できるよう危機管理体制を整えている。施設責任者、副責任者を対象に消防訓練の参加を必須とし避難経路の確認、消火設備の点検を行い、防火シャッター下・消火設備周辺には物を配置しないことを徹底し、万全の処置を講じている。		
	県・関係機関との連携	<p><月間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会(12回実施)の開催。 <p>所轄課である東播磨県県民局地域振興室と月1回の定例会を開催</p> <p><年間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会(1回実施) <p>関係機関等の連携では、年1回の審議会を開催、地域の大学、企業の有識者を交え施設運営に関する意見交換の機会を設ける</p>	<p>県民局担当課との定例会(12回実施)の開催。所轄課である東播磨県県民局地域振興室と月1回の定例会において、運営の意見交換及び情報共有、検討事項などの協議を実施している。</p> <p>審議会は、密を避けるためオンラインで開催。行政機関や企業、NPO、教育機関、近隣施設などセクターの垣根を超えた幅広い視点から事例共有、助言を頂き施設運営に役立てた。</p>	◎	◎
	業務の再委託の状況	—	なし	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

本年度は、コロナ禍の運営において当初の事業計画を常に見直し、新たな県民サービスや支援の方法を模索した1年となりました。変化の激しい時代であるからこそ、状況に応じて柔軟な対応や行動が求められるなか、地域活動を支援する拠点として、オンラインや情報発信を通じて支援に取り組むことができたとして自己評価しています。指定管理者1年目となる2021年度は、これまでの団体支援から、より個人の生活創造活動の支援にフォーカスし、若年層を対象に「自分らしく生きるためのヒント」となる情報発信や多様な価値観と出会う学習機会の提供を始めとした支援を行ってきました。

県民同士の「つながり」の形成に加え、「新たな自分と出会う」ことを施設のコンセプトとし、県民一人一人の生活創造活動を2022年度も継続的に支援していきます。

令和3年度 総合評価シート

評価者：東播磨県民局地域振興室

施設名	東播磨生活創造センター	現指定管理期間	令和3年～令和7年
指定管理者	特定非営利活動法人シミズシーズ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症による閉館や、利用者のイベント等自粛などもあり、利用者数はのび悩んではいるものの、有料施設の稼働率は持ち直しつつある。オンラインでのイベント開催など、ウィズコロナに対応した運営の工夫も評価できる。
- ・ 利用者アンケートの結果では、スタッフの対応や、総合的な満足度について、高い評価を獲得しており、今後も良質な県民へのサービスが期待できる。
- ・ 運営体制については、適正なスタッフを配置するほか、多くのボランティアを巻き込むことで、運営を効率化させ、かつ地域活動の活性化も促している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

法人負担が発生しており、安定した運営のためには、コロナウィルスの影響で落ち込んだ利用料金収入の回復や、自主事業の充実などによる収入の確保、事務事業の改善・効率化等による支出の引き締めを引き続き進める必要がある。

県としては、定例会（毎月1回）等を通じ、引き続き必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報、アンケート実施などの取り組みを求めていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 3 年度 管理運営評価シート

施設名	県立但馬文教府	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・ 定期清掃(床・窓ガラスなど)を行 う	日常清掃(週5日)、定期清掃(P タイル・木床部・ワックス塗布、カ ーペット部洗浄、窓ガラス拭き、 体育館ワックス塗布 年1回)	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の電気・消防等の保守 並びに衛生管理を行う	消防設備点検(年2回)、自家用 電気工作物点検(毎月)、防火対 象物点検(年1回)、防虫駆除 (薬剤散布年2回)	◎	◎
	植栽管理	施設全体・敷地内の植栽管理を 行う	樹木剪定、草刈り等	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管 理を行う	機械警備(通年) 集客行事開催時は職員による駐 車場案内・整理を実施	◎	◎
	小規模修繕	財産等について必要な修繕(大 規模改修を除く)を行う。	樹木伐採除去、電気系統不良箇 所修繕等	◎	◎
	法定点検の実施	法律で定められた点検を実施	消防設備点検・小規模貯水槽水 道定期検査	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時 間等	休館日(12月29日から1月3日 まで)を除く9時から21時まで	左記以外の対応 緊急事態宣言発出に伴う休館:4 月25日から5月11日	◎	◎
	公共性・公平性 の確保	正当な理由がない限り、施設を 利用することを拒んではならな い。また、施設を利用することに ついて、不当な差別的扱いを行 わない。	施設利用の基準等に照らしなが ら、左のとおり実行している。	◎	◎
	各種事業・プロ グラムの実施状 況	・貸館事業の実施 ・生活創造・地域づくり活動の支 援 ・生涯学習の支援 ・地域文化の振興 ・情報の収集と提供	【指定管理業務】4年生大学講座 年25回、大学院講座年21回、 地域公開講座開催、展示事業年 26回開催、但馬文庫の運営、ホ ームページの運営 【自主事業】文教府夏期大学、 2021親子フェスタ、科学する但 馬の子ども作品展、小・中学生 の作文・詩集、但馬文学のつど い、但馬歴史講演会、等	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	定期的に利用者からの意見聴取や満足度等の把握を行う。	利用者アンケート調査 調査時期 令和4年2月1日～28日 調査内容 利用施設・目的・動機・満足度・要望等 回答数 116件 結果概要 満足度については各項目とも「大いに満足」「少し満足」「普通」がほとんどを占めており、「少し不満」が若干あったが「大変不満」はなかった。	◎	◎
利用状況	利用者数	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度:55,156人]	前年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が減少していたが、今年度は76,583人で、おおむね一昨年並みだった。	◎	◎
	施設稼働率	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度] 体育館:68.2% 会議室:23.4% 第1研修室:14.1% 第2研修室:10.6% ふるさと交流館:25.2%	ふるさと交流館の利用が伸びており、稼働率が上昇している。それ以外の施設については、おおむね昨年度並みだった。 体育館:68.5% 会議室:20.3% 第1研修室:29.3% 第2研修室:12.5% ふるさと交流館:32.7%	◎	○
収支状況	収支計画と実績	(収入) 利用料金収入 1,418,000円 指定管理料 42,611,000円 その他収入 1,302,000円 45,331,000円 (支出) 45,331,000円	(収入) 利用料金収入 2,051,364円 指定管理料 44,390,000円 その他収入 1,480,270円 47,921,634円 (支出) 47,921,634円 ふるさと交流館の利用増により当初予算から大幅に収入が増加した。	◎	◎
	経費節減に向けた取組	・節電 ・簡易な修繕の直営実施 ・借上げ機器の再リース 等	・節電…電化製品待機電力削減、空調の時間差起動、デマンド監視によるピークカット ・直営実施…植栽剪定・除草、除雪 ・印刷機の再リース ・ETC割引による有料道路通行料金節減	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	県民からの苦情・要望については、県民の立場に立った親切な対応に心がけるとともに、責任をもって、迅速に処理する。	特に大きな苦情はなく、個別の要望についてはその都度対応した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	事故、急病・けが、事件等が起こった場合に、適切かつ速やかな対応を行うため、予め事故対応マニュアルを策定する	消防計画、警備及び防災計画等のマニュアルを作成し、職員に周知するとともに、火災消火・避難訓練を実施、また消防設備の自主点検を行った。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県・関係機関との連絡調整を十分に行い、適切で迅速な対応を行う。	事業や施設運営上必要な連絡・報告・協議等を県や関係機関と緊密に行うとともに、関係機関の連絡先や緊急時における連絡先・方法を職員に周知している。	◎	◎
	業務の再委託の状況	施設管理に関する業務の一部を委託する。	庁舎清掃業務 庁舎機械警備業務 自家用電気工作物保安全管理 消防設備点検保守 ごみ処理業務 デマンド監視業務 庁舎防虫駆除管理業務 飲料水貯水槽清掃業務 簡易専用水道定期検査業務 敷地内駐車場除雪業務 危険樹木調査	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設維持管理、運營業務については、突発的な事象も含め、適切に実施できている。周辺地域への PR 活動等を積極的に行っている。利用状況については、ふるさと交流館の利用開始に伴い、新規利用者の増加がみられる。今後も広報の充実、新規利用者の確保に努めてゆく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部県民生活課

施設名	但馬文教府	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・それぞれの項目において、事業計画に基づいて適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルスの影響により、変則的な運営や利用者対応に配慮を要した1年であったが、利用者数の増加傾向を見ると、ふるさと交流館の利用開始によるものが主だが、施設の周辺地域への積極的なPRと日常の清掃・点検が適切にされ、利用者の安全・安心及び快適性が確保できているためと考えられる。
- ・利用者アンケートにおいても、概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好である。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・引き続き、施設のPRや多様な事業の実施に努めるとともに、効率的・効果的な運営を図るよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	西播磨文化会館	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)。	◎	◎	
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降設備等の運転・保守並びに水質・防虫等の衛生管理を行う。	◎	◎	
	植栽管理	樹木、芝生、草花の剪定、病虫害防除等	職員作業による芝生管理(散水・芝刈り)樹木剪定を実施し日常管理を行った。	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管理を行う	施設は機械警備業務委託により警備。 イベント等の開催日は駐車場案内員を配置するなど、適切な警備体制により、来館者の安全確保に努めた。	◎	◎
	小規模修繕	財産等について必要な修繕を行う	污水配管引替工事、自火報修繕、体育館前スロープ修繕等を行った。 危険な状態を取り除き、安全で快適な施設維持に努めた。	○	○
	法定点検の実施	法令等に基づき定期点検等を適正に行う	消防設備機器点検・機器総合点検、受水槽清掃及び水質検査を適正に実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	9時から21時まで 休館日(12月29日から1月3日)を除く	◎	◎	
	公共性・公平性の確保	正当な理由がない限り、施設を利用することを拒んではならない。また、施設を利用することについて、不当な差別的取り扱いを行わない	◎	◎	

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	各種事業・プログラムの 実施状況	文化的行事の開催。社会教育及び学校教育に関する講座の開設。講習会、講演会、展示会の開催等。機関誌清流発行。ホームページ運営。	【指定管理業務】 4年制大学講座開講年間27回、2年制大学院講座開講22回、地域公開講座開催等、事業計画に基づき実施することができた。公開講座では、オンライン配信等の設備を活用し、講堂での講義を館内の他の教室で分散して聴講してもらう等、コロナ禍においても安心して受講できる環境を整えた。 【自主事業】 地域の各種団体等と協働して、西播磨ふるさと文化祭や播磨「歴史・地域学」講座、オンラインによる生涯学習講座を開催することにより、伝統文化等に関する学びや活動の機会を提供した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)		令和3年12月に1回、会館利用者へアンケート用紙を配布し調査を行った。 使いやすさ、職員対応についてはともに96%以上が満足との回答であった。	◎	◎
利用状況	利用者数	前年度増 [前年度:54,369人]	63,602人	◎	○
	施設稼働率	前年度増 令和2年度実績 講堂:20.5% 会議室等:7.4% 美術展示室:21.8% 体育館:39.3% 運動場:22.5% 等 [平均:10.1%]	令和3年度実績 講堂:17.9% 会議室等:9.6% 美術展示室:23.8% 体育館:36.0% 運動場:23.3% 等 [平均:11.6%]	◎	○
収支状況	収支計画と実績	【当初予算】 収入 42,331,000円 内訳(指定管理料等収入39,457,000円、施設使用料収入1,572,000円、その他収入1,302,000円) 支出 42,331,000円	収入 51,776,273円 内訳(指定管理料等収入48,885,000円、施設使用料収入1,579,273円、その他収入1,312,000円) 支出 51,776,273円	◎	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支 状況	経費節減に向けた取組	節電の徹底	使用していない部屋の電灯やエアコンの電源を切る等節電の徹底に取り組んだ。また、軽微な修繕等は職員で対応することで経費削減につなげた。	◎	◎
	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情については、担当者だけで終わらず、館の問題として職員全体で解決を図る	要望のあった清掃用具を購入・設置した フリーWi-Fi 設置の要望に対しては、現在利用可能な場所の周知に努めた。利用可能範囲拡大の要望も多く、今後検討が必要と考えている 苦情・要望への対応状況等について、ホームページに掲載し周知している	◎	◎
運営 体制	危機管理体制の確保	事故、急病・けが、事件等が起こった場合に、適切かつ速やかな対応を行うため、予め事故対策マニュアルを策定する	消防訓練を年2回実施した 職員連絡網・災害時職員行動マニュアルを作成・配布した	◎	◎
	県・関係機関との連携	県との連絡調整を十分に図り、適切かつ迅速な対応を行う	協会本部を通じた連絡調整だけでなく、定期的に西播磨県民局の連絡会議に出席するなど情報交換・連携に努めている	◎	◎
	業務の再委託の状況		複合機保守、複合機リース、機械警備、自家用電気工作物保安管理、消防設備保守点検、一般廃棄物処理、昇降機保守点検、建物等清掃	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

業務計画・目標に沿い、概ね計画通りに会館運営を行うことができた。
 会館利用状況は前年度と比較すると増加しているが、新型コロナウイルス感染症流行前に比べると利用者が減少しており、利用状況の回復が今後の課題である。
 令和4年度も引き続き、利用者アンケート等の意見を柔軟に取り入れる等、利用状況の回復に向け、より利用しやすく開かれた施設となるよう業務を行う。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部県民生活課

施設名	西播磨文化会館	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

業務計画に沿い、概ね計画通りに会館運営を行うことが出来た。
 利用しやすい環境づくりに務め、施設維持・運営業務を適切にできた。
 新型コロナウイルス感染症対策についても留意しながら各種事業を行うことができた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

それぞれの項目において、事業計画に基づき適切に業務が実施されている。
 新型コロナウイルスの影響により、変則的な運営や利用者対応に配慮を要した1年であったが、施設の管理・運営業務全般を通して、県民が快適に利用できるよう迅速な対応と効率的な運営が実現できた点について評価できる。
 利用者アンケートにおいても高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	淡路文化会館	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	施設全体の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)を行う。	日常清掃は、土曜・日曜・祝日を除く週5日実施。 定期清掃は、ワックス掛け、ガラスクリーニングを実施した。	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防等の運転・保守並びに空気環境・水質・防虫等衛生管理を行う。	業者委託により、電気設備・消防・水質・防虫等の定期点検を実施した。	◎	◎
	植栽管理	施設全体の植栽管理を行う。	除草・植栽の一部の作業は、シルバー人材センター等に委託し、実施した。(4回) また、高齢者大学の受講生による自治会活動により美化活動を実施した。	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管理を行う。	休館日、夜間について、機械警備により警備会社に業務委託した。	◎	◎
	小規模修繕	建物を管理し、施設が安全に利用できるように努める。	不具合が発生した箇所において、可能な限り速やかに修繕を実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	自家用電気工作物保守点検、消防設備点検、防火対象物点検、浄化槽水質検査、ボイラー熱交換器性能検査、ボイラー煙道排ガス測定を実施する。	左記の法定点検について、実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日:12月29日～1月3日 開館時間:9:00～21:00	規定どおりに実施した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	本館(調理教室)、講堂、別館(会議室、美術展示室、視聴覚教室)、体育室、多目的グラウンドについて、統一的な基準により貸館業務を行う。	統一的な基準により貸館業務を行い、特定の利用者に利用がかたよらないよう、公平な受付業務に努めた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
運営業務	各種事業・プログラムの実施状況	青少年及び成人の教養を高め、並びに地域文化の向上及び地域スポーツの振興を図るとともに、生活創造活動を支援するため、事業を実施する。	【指定管理業務】 淡路文化会館 PR 事業(2回) 「いざなぎ学園」地域公開講座(1回) 「いざなぎ学園大学」見学会(5回) 「いざなぎ学園大学」(26回) 「いざなぎ学園大学院(地域活動実践講座)(21回) 【自主事業】 淡路日本画セミナー講座(9回)、同作品展(3回) 淡路洋画セミナー講座(9回)、同作品展(1回) パッチワーク講座(10回) 剪定講座(2回) スマートフォン活用講座(1回)	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケート配布により利用者満足度調査を実施し、ニーズを把握し、施設運営・事業計画に反映させる。	令和3年10月1日から12月28日の間アンケートを配布し、利用者満足度調査を実施した。 また、淡路文化会館いざなぎ学園(4年制高齢者大学)では、聴覚障害者の方から新年度の入学の申し出が一旦あったが、手話通訳を自分で手配しなければならないことを知り辞退された。	○	○
利用状況	利用者数	前年度増 [前年度:20,942人]	令和3年度利用者数 29,639人	○	○
	施設稼働率	稼働率の増加に努める。 令和2年度実績 講堂:11.3% 会議室:8.9% 美術展示室:37.6% 視聴覚教室:13.0% 調理教室:0.3% 体育室:19.1% 多目的グラウンド:8.3% グラウンド:19.5% 平均:16.7%	稼働率平均が増加した。 令和3年度実績 講堂:11.3% 会議室:10.1% 美術展示室:49.5% 視聴覚教室:12.0% 調理教室:0.4% 体育室:28.5% 多目的グラウンド:6.8% グラウンド:21.8% 平均:17.55%	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課																			
収 支 状 況	収支計画と実績	計画(単位:千円) 〈収入〉 指定管理料:42,287 利用料金等収入:833 事業収入:700 合計:43,820 〈支出〉 合計:43,820	実績(単位:千円) 〈収入〉 指定管理料:45,616 利用料金等収入:1,032 事業収入:700 合計:47,348 〈支出〉 合計:47,348	◎	◎																			
	経費節減に向けた取組	コストカットのため業務や実施の手法を見直す。 また電力契約基本料や使用料削減のためデマンド監視装置を設置し管理を行う。	デマンド管理による契約電力の抑制等により経費削減に努めた。 また、印刷の方法を枚数により使い分けることで印刷代の削減に努めた。	○	○																			
運 営 体 制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情等が発生した場合は速やかに対応し、管理職への連絡を密に行い、処理を行う。 また、アンケート等により利用者からの要望を確認し、サービスの向上を目指す。	苦情等が発生した場合は速やかに対応し、管理職への連絡を密に行い、処理を行った。 また、アンケート等により利用者からの要望を確認し、サービスの向上を図った。	○	○																			
	危機管理体制の確保	協会災害等対策本部設置要綱に基づき災害対策本部を設置し、災害時の職員の行動マニュアルを策定し、危機管理体制を構築する。 また、消防訓練・避難訓練を年2回行う。	協会災害等対策本部設置要綱に基づき災害対策本部を設置し、災害時の職員の行動マニュアルを策定し、危機管理体制を構築した。 また、消防訓練・避難訓練を2回行った。	◎	◎																			
	県・関係機関との連携	関係機関と連携を密にし、業務を行う。	事業を行うにあたり、県民局、教育委員会や文化団体等の関係機関と連絡を密にし、体制を整えた。	◎	◎																			
	業務の再委託の状況	入札等により適切な委託先を選定し、業務の委託を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>業務内容</th> <th>委託先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清掃業務委託</td> <td>緑クリーンサービス</td> </tr> <tr> <td>機械警備</td> <td>セコム(株)</td> </tr> <tr> <td>浄化槽保守</td> <td>(有)中淡清掃</td> </tr> <tr> <td>電気設備保守</td> <td>倉尾和実</td> </tr> <tr> <td>ウェブサイト保守</td> <td>(有)スリークラフト</td> </tr> <tr> <td>空調機器点検</td> <td>(株)淡路空調</td> </tr> <tr> <td>鯉の池揚水料</td> <td>榎ヶ谷田主</td> </tr> <tr> <td>除草作業等</td> <td>淡路市シルバー人材センター</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検</td> <td>清水冷機電機</td> </tr> </tbody> </table>	業務内容	委託先	清掃業務委託	緑クリーンサービス	機械警備	セコム(株)	浄化槽保守	(有)中淡清掃	電気設備保守	倉尾和実	ウェブサイト保守	(有)スリークラフト	空調機器点検	(株)淡路空調	鯉の池揚水料	榎ヶ谷田主	除草作業等	淡路市シルバー人材センター	消防設備点検	清水冷機電機	◎
業務内容	委託先																							
清掃業務委託	緑クリーンサービス																							
機械警備	セコム(株)																							
浄化槽保守	(有)中淡清掃																							
電気設備保守	倉尾和実																							
ウェブサイト保守	(有)スリークラフト																							
空調機器点検	(株)淡路空調																							
鯉の池揚水料	榎ヶ谷田主																							
除草作業等	淡路市シルバー人材センター																							
消防設備点検	清水冷機電機																							

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設維持管理、運営業務においては、適切な対応を実施できた。

今後も適切な運営体制を整え、適切な施設維持管理、工事に対する安全確保等、利用者が安心・快適に利用できる会館になるよう努め、利用者の増加、稼働率の上昇を目指していく。

令和3年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 県民生活課

施設名	淡路文化会館	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

業務計画に沿い、概ね計画通りに会館運営を行うことが出来た。
 利用しやすい環境作りに努め、施設維持・運営業務を適切に出来た。
 指定管理業務を始め、様々な自主事業を行うことで、地域の生活創造活動を支援出来た。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

それぞれの項目において、事業計画に基づき適切に業務が実施されている。
 新型コロナウイルスの影響により、変則的な運営や利用者対応に配慮を要した1年であったが、施設の管理・運営業務全般を通して、県民が快適に利用できるよう迅速な対応と効率的な運営が実現できた点について評価できる。
 利用者数において、前年度と比べて約 140%と大幅に増加しているが、新型コロナウイルス流行前と比べるとまだ半分ほどなので、引き続き利用者の増加、稼働率の上昇を目指して欲しい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A			

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラス等)及び管理を行う。	清掃は日常業務として実施した。(週6回、年308回) 床のワックスがけ 年12回、窓ガラス磨き 年4回実施した。他、突発的な汚れ等への清掃対応。 計画どおり適切に行い、施設利用者アンケートにおける「施設の清潔さ」では、92.4%が満足していると回答。	○	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降設備及び空気環境・水質・防虫等の衛生管理を行う。	空調冷凍機簡易点検 年4回、電気設備 月1回、消防 年2回、昇降設備 年16回、空気環境 年6回、水質 年1回、防虫 年2回の設備保守・衛生管理点検を実施した。急な設備故障への対応。 諸設備の運転・保守及び衛生管理を適切に行い、利用者の安全・安心を保ち、優れた管理運営を行った。	○	◎
	植栽管理	施設全体・敷地内の植栽管理を行う。	日常業務として実施した。(週6回、年308回) 年3回花の植え替えを実施した。 毎日、枯れ葉を掃除し、定期的に季節の花に植え替えるなど植栽管理を適切に行い、来館者に、劇場としての雰囲気醸し出す、良好な環境を整えた。	○	◎
	警備	施設全体の警備(常駐、夜間警備、巡回警備等)及び駐車場管理を行う。	施設警備、駐車場管理を適切に実施した。(自動警備週7回、年365回含む) 来館者へ職員の声かけを行うなど、安全、安心な劇場を提供した結果、トラブルはなく、利用者の満足度も高く、優れた管理運営を行った。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	小規模修繕	施設全体の維持管理のため不良個所の修繕を行う。	老朽化した施設各所の錠前や扉、照明など不具合箇所の修繕を行った。 施設の諸設備の保守・維持管理をきめ細かく行い、施設利用に支障をきたさない、優れた管理運営を行った。	◎	◎
	法定点検の実施	法定点検を実施し、適正な保全業務を行う。	・電気設備、昇降機、消防設備、蓄電池等法定点検等を適切に実施し、消防設備の不具合など迅速な改善に努めた。 また、特定建築物における建築設備及び防火設備の法定点検を実施した。	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	管理運営業務仕様書のとおり業務を行う。	開館時間:9:00~21:00 開館日数:308日 休館日:定休日 51日(原則月曜日)。 年末年始休館日 12月29日~1月3日の6日。 必要に応じて早朝、夜間の延長対応を行い、利用者の利便性に配慮し、優れた管理運営を行った。	○	◎
	公共性・公平性の確保	管理運営業務仕様書のとおり業務を行う。	管理運営業務仕様書のとおり業務を行った。 また、音楽・舞踊相談員、演劇相談員を配置し、アマチュアの利用者が本格的な舞台芸術公演を行える運営体制をひき、優れた管理運営を行い、施設利用者アンケートにおける「全体満足度」では、95.8%が満足したとの結果をえている。	◎	◎

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>貸館業務 自主事業 (1)鑑賞劇場 9事業 (2)文化セミナー 2回 (3)実技教室 4事業 (4)演劇学校 ア 授業 イ 公演実習 ウ 公開授業 エ 選考試験 (5)舞台技術学校 ア 授業 イ 公演実習 ウ 公開授業 エ 選考試験 (6)ピッコロ演劇賞の贈呈 (7)県立ピッコロ劇団 ア 公演 イ 演劇指導 ウ 外部出演等</p> <p>大・中・小ホール、楽屋、練習室等を統一的な基準により貸館業務を行う。 青少年の自由な創造活動を促進し、県民文化の高揚を図るため、文化事業を実施する。</p> <p>大・中・小ホール、楽屋、練習室等の使用料収入の確保に努め、約84.0%の利用率とした。 シアタースタート、桂ざこば一門の落語会等、優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場9事業を実施し、入場者総数2,192人となったほか、青少年の創造活動を促進し、県民文化の高揚を図った。 県立として全国初の兵庫県立ピッコロ劇団(劇団員35人)は、優れた舞台芸術の創造と地域文化の振興をめざし、10事業48公演を行ない、観客者数は7,553人であった。アウトリーチ活動として、演劇手法を使ったゲーム等を通して豊かな表現力や感受性を小学生に育む「あつまれピッコロひろば」事業を無償で行うなど、優れた管理運営を行った。</p>	○	◎
	<p>利用者満足度調査結果 (アンケート調査)</p>	<p>令和3年10月1日～令和3年12月26日に44回実施する。</p> <p>令和3年10月1日～令和3年12月26日に44回実施した。 施設利用満足度調査において、職員対応に94.9%が満足し、施設サービス内容でも84.7%が満足しており、高い評価を維持している。</p>	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用 状況	利用者数	年間来場者総数は10万人を 目標とする。 [前年度:2万9千人]	昨年に引き続き、コロナ禍に よる影響を受け、年間来場者 総数は、約5万8千人となり 目標を下回ったが、徐々に 回復傾向になっている。	○	◎
	施設稼働率	年間の劇場全体稼働率は8 0%を目標とする。 [前年度:93%]	年間の劇場全体稼働率は 99.0%となり目標を達成した。	○	◎
収 支 状 況	収支計画と実績	収入合計 446,011 千円 支出合計 446,011 千円	<p>予算執行を適切に行った。</p> <p>収入</p> <p><劇場> (税込み)</p> <p>1 指定管理収入 119,444 千円</p> <p>2 受託事業収入 0</p> <p>3 施設利用料収入 17,922</p> <p>4 補助金収入 41,795</p> <p>5 補助事業収入 25,185</p> <p>計 204,346</p> <p><劇団></p> <p>1 補助金収入 193,666 千円</p> <p>2 補助事業収入 47,999</p> <p>計 241,665</p> <p>合 計 446,011</p> <p>支出</p> <p><劇場></p> <p>1 人件費 84,880 千円</p> <p>2 物件費 82,564</p> <p>3 補助事業費 36,902</p> <p>合 計 204,346</p> <p><劇団></p> <p>1 人件費 114,655 千円</p> <p>2 物件費 127,010</p> <p>計 241,665</p> <p>合 計 446,011</p> <p>文化庁から45,832千円の助成 金を得るなど、外部資金の導入 により、よりいっそう充実した公 演等の事業展開を行い、優れた 管理運営を行った。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	経費節減に向けた取組	省エネ対策による経費節減	冷暖房の適切な温度設定、事務室・ロビー等天井灯の一部消灯、照明のLED化により、消費電力の節約に取り組んだ。 利用のない時間帯の消灯、空調の停止などを実施したほか、照明のLED化及びセンサーライトの設置で節電を行った。	○	◎
	苦情要望等の対応体制・内容	利用者満足度調査等を実施する。	利用者満足度調査や、主催事業ごとの来場者アンケートを実施し、管理、監督職が目を通し苦情要望等に迅速に対応した。	○	◎
運営体制	危機管理体制の確保	消防訓練を実施する。	年2回の消防訓練を通して、非常連絡網等の確認を行った。 防火管理関係の資格取得者が6名おり、自主事業を想定した実地訓練を行うなど、優れた管理運営を行った。	○	◎
	県・関係機関との連携	毎月芸術関係連絡会議を開催する。	毎月の芸術関係連絡会議を通して、情報交換を綿密に行った。 県芸術文化課、県芸術文化協会本部ばかりでなく、地元尼崎市と随時連絡・連携を行い、優れた管理運営を行った。	○	◎
	業務の再委託の状況	施設の維持管理における業務の再委託を適切に行う。	再委託率 33.4%と適正な管理運営を行った。	○	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

それぞれの項目において協定等に定める内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部芸術文化課

施設名	県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

それぞれの項目において、事業計画に基づき適切に業務が実施されている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 利用者へのアンケートによる満足度調査で全体的に高い評価を受けており、適切な維持管理ができ、施設全体の99.4%と高い利用率を維持している。
- 施設が老朽化しているが、小修繕等適切に対応しており、施設の保守安全管理において配慮が行き届いている点が高く評価できる。また、H30～R2 に県が進めてきた大規模改修工事についても、利用者・施設・ホール関係者・工事関係者に係る総合的な調整機能を担っているほか、指定管理者として業務に密接に関係する一部事業を受託するなど、主体的にその役割を果たしている。
- 県の芸術文化施策方針に沿って、指定管理事業の運営のみならず、独自の自主事業展開を図り、公立施設としての社会的役割を一層高めている。
- 指定管理者による適正な管理運営がされていると判断するが、県として、引き続き、適正かつ必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービス向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報・アンケート実施など取組みを求めていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	芸術文化センター	現指定管理期間	令和元年～3年 (3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	<p>【実績】 左記の清掃業務に加え、突発的な汚れ等への対応</p> <p>【評価】 施設利用者アンケートでは、「施設の清潔さ(清掃状況等)」の満足度は100%となっている。(R3年度アンケートより)</p>	◎	◎
	設備保守管理	<p>【実績】 左記の業務に加え、急な設備故障等への対応</p> <p>【評価】 日頃の点検と適切な運転により、95%を超える高稼働の施設を支えている。</p>	◎	◎
	植栽管理	<p>【実績】 左記の業務に加え、緊急時の特別植栽業務を実施</p> <p>【評価】 適切な植栽管理により美観を保ち、年間約50万人の来館者の心を癒している。</p>	◎	◎
	警備	<p>【実績】 世界一流のアーティストを含む年間数万人に及ぶ楽屋口入館者への適切な対応のほか、火災訓練時には自衛消防隊の中核的役割を担当</p> <p>【評価】 日頃の機器メンテナンス・巡回警備・守衛業務により、年間約50万人の来館者の安心・安全を確保するとともに、出演するアーティストやスタッフを最初に迎える楽屋口においても丁寧な接遇を行っている。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	小規模修繕	来館者の安全・安心、快適性の確保できない、利用者に通常の公演環境を提供できない状況について修繕	<p>【実績】 来館者の安全・安心を確保するうえで急施を要するものについては直ちに実施。空調機の修繕、監視モニター補修、客席補修、大ホール屋上庭園防水工事等を適宜実施。さらに感染症予防対策のために、施設利用者や職員・スタッフの使用する諸室に網戸を設置して換気効率の改善を行った。</p> <p>【評価】 連日多くの来館者が訪れる施設であるため、急施を要する修繕にも早急の対応を行い、来館者の安全・安心や快適性を確保した。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	建築設備定期点検、建築物定期調査(特殊建築物定期調査)、防火設備定期検査、フロン定期点検、連結送水管耐圧試験	<p>【実績】 建物の安全管理の為に各種建築設備の点検や、有事の消火活動に支障のないようにする為の消防設備の点検等を実施</p> <p>【評価】 来館者・利用者・職員が安心して鑑賞、施設利用、就業できる環境を整えている。</p>	◎	◎
	その他	フロント業務(ホール案内、総合案内、チケット販売、グッズ販売管理、スタジオ受付)、チケットオフィス管理(チケット予約販売、発送等)、ホール楽屋管理、舞台機構・照明設備・音響設備の技術操作、保守管理、定期調律等	<p>【実績】 開館時の想定よりも2割増のホール稼働率で運用しており、令和3年度の年間イベント数は約610であったが、万全の感染症予防対策を施しながら、多数の公演を無事終了した。また、障害者・高齢者への配慮や急病人への対応も迅速丁寧に行った。</p> <p>【評価】 年間約600に上る公演に適切に対応。施設利用者アンケートでは、スタッフへの満足度は99%超、また、舞台機構・照明・音響などの設備についての満足度も99%超となるなど、ソフト面・ハード面とも利用者から非常に高い評価を得ている。(R3年度アンケートより)</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運 営 業 務	開館日・開館 時間等	原則として、月曜日休館 (夏季・冬季に臨時休館)、 午前9時から午後10時まで (駐車場は午前7時から 午前0時まで)	<p>【実績】 利用者の要望に応じ、午前9時や午後10時を超えた早朝・夜間の延長を実施。また、総合案内所・チケットカウンターは通常午後5時までであるが、必要に応じ延長営業を実施。さらに、チケット発売日には、スタッフ40名、電話35台体制を整え、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>【評価】 施設利用者アンケートでも、9割を超える高い満足度となっている。(R1アンケートより) また、コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言等の発出等に応じた利用制限を適時適切に行った。</p>	◎	◎
	公共性・公平 性の確保	施設利用基準によりセンターの目的に沿った施設利用を推進	<p>【実績】 専任のスタッフを置き、施設利用の相談案内に応じている。ホームページにおいて、ホール等施設の空き状況等の情報を提供。利用希望者が多いため、毎月、抽選会を実施。施設利用受付後、施設利用審査会を実施(月1回)。</p> <p>【評価】 センターの特徴を生かした本格的舞台芸術公演に多数利用されている。</p>	◎	◎
		施設利用料金の設定	<p>【実績】 県条例や規則に基づく利用料金の徴収や申請手続を実施</p> <p>【評価】 公演内容に応じた適正な受益者負担を図るとともに、適切な事務手続を行っている。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	<p>1 芸術文化センターの運営 (1) 創造・公演事業の実施 (基準: 36事業 58公演) ① プロデュース事業 ② 招聘・提携・共催事業 ③ 普及・交流事業の実施 ④ 翌年度以降の事業準備</p>	<p>【実績】 108事業 181公演実施 ① プロデュース事業(6事業 15公演) 芸術監督プロデュースオペラ「メリー・ウイトゥー」(8公演)、ジルクエスト・コンサート(1公演)、ひょうごの民俗芸能祭(1公演)ほか ② 招聘・提携・共催事業(63事業 117公演) コロナ禍のため中止となった海外招聘公演も多かったが、様々な国の優れた舞台芸術を上演するほか、「世界音楽図鑑」(5公演)、「古楽の愉しみ」(1公演)、クリスマス・ジャズ・フェスティバル(6公演)などの企画公演をシリーズ展開。 関東圏の公立館と連携して良質な演劇公演を実施する等、国内トップレベルの舞台芸術を継続して実施することができた。 ③ 普及・交流事業(39事業 49公演)</p>	◎	◎

		<p>ワコインコンサート（入場料 500 円）（7 公演）、舞台芸術団体フェスティバル、ピッコロ劇団公演 ほか</p> <p>【評価】 事業費補助金（3.5 億円）を活かした独自の事業を展開することで、コロナ禍の状況においても、徹底した感染防止対策（売り止め、PCR 検査、公演直前の変更・中止など＝収入の減・経費の増、職員の負担増）を講じながら、基準の約 3 倍の事業・公演数を実施。 「芸術監督プロデュースホール（長期公演）」は、コロナ禍では全国初となったホール全幕上演。また、海外招聘公演の中止が相次いだが、国内アーティストの積極的登用で上質な鑑賞機会を提供した。ワコインコンサート、プロムナードコンサートなどの低額入場料公演では、舞台芸術ファンの裾野を拡大。 舞台芸術団体フェスティバルでは、幅広い県内団体に上演機会を提供し、地域の文化力向上に貢献。 観客アンケートでは、公演満足度は 98% に及び、県民から高い支持・共感を得ている。（R 元年度アンケートより）</p>		
	(2) 貸館事業の実施	<p>【実績】 各ホール（272 事業 288 公演）、リハーサル室（利用率 94%）、スタジオ（利用率 85%）等の貸館事業を実施</p> <p>【評価】 幅広いジャンルのプロアマチュアの利用に供し、高い利用率となっている。施設利用者の「利用後の全体的な印象」の満足度は 100% と非常に高く、「今後もホールを利用したい」団体等も 99% にのぼる。（R3 年度アンケートによる）</p>	◎	◎
	2 兵庫芸術文化センター 管弦楽団の運営 (1) 楽団事業の実施 （基準：88 公演）	<p>【実績】 ・演奏活動（82 公演） ①定期演奏会（6 事業 18 公演。コロナ禍の影響により一部の定期演奏会については特別演奏会を代替実施） ②特別公演等（4 事業 5 公演） ③室内楽演奏会（3 事業 3 公演） ④青少年鑑賞公演（1 事業 35 公演） ⑤外部依頼公演・外部公演（13 事業 19 公演）、SKO 公演（1 事業 2 公演） *上記のほか、芸術文化センター事業 4 事業 12 公演に出演 ⑥アトリチ活動（29 回） 新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度に中止した小学校・特別支援学校等を対象に実施。 ⑦青少年リモートレッスン人材育成事業（10 校 14 回） 令和 3 年度から、県内中・高校部活動等の演奏の指導を行う本事業を開</p>	◎	◎

			<p>始。遠方の学校の生徒に対して、楽団員がオンラインで指導。</p> <p>【評価】 海外から指揮者やリストが招聘できない公演もあり、出演者の変更などを余儀なくされたが、国内アーティストに変更することで、中止することなく質の高い演奏会を開催した。また、特別演奏会は定期演奏会の代替公演を実施するなど、室内楽公演も含めコロナ禍前の事業展開に戻した。</p> <p>「わくわくオーケストラ教室」は、コロナ禍の影響で全校参加とはならなかったものの、35公演（当初40公演）、201校、約2万3千人の生徒が生徒のオーケストラ演奏を鑑賞した。鑑賞した生徒の98%以上から「参加してよかった」「生演奏がよかった」などの感想が寄せられ、高い評価を得た。さらに、「わくわくOnlineオーケストラ教室」を制作・配信するとともに、DVDを製作して県内小・中学校に配布することで、コロナ禍における児童生徒の音楽学習支援を行った。</p>		
	(2) 楽団の運営		<p>【実績】 以下の体制により運用 ①レジデント・コンダクター、②常勤奏者（コンサートマスター3名、ミュージック・アドバイザー1名、コメンター40名）、③アソシエイト・プレイヤー（客演演奏家により大規模編成の演奏体制整備）、④事務局職員</p> <p>【評価】 コメンターはセンターでの活動実績を重ねる中で一層技量を向上させ、国内外プロオーケストラの主要メンバー（「アントワープ交響楽団」等）として転出するなど、楽団設立理念の一つであるアカデミー機能についても着実に成果を上げつつある。</p> <p>また、コロナ禍の影響により海外から特別契約奏者を招聘するのが困難な状況だが、国内ゲスト奏者との共演・指導を実施し、コメンターの技術力向上の場を確保した。</p>	◎	◎
	3 広報・普及事業等 (1)薄井バレエコレクションの管理・活用 (2)情報コーナーの開設・運営 (3)多面的な広報宣伝活動 (4)自主媒体による展開 (5)芸術文化センター会員制度の運営 (6)普及事業の実施及び舞台技術 関係者、アートマネジメント人材の育成		<p>【実績】 薄井バレエコレクション（約6,500点）の概要や展示情報をインターネットで配信するとともに、主催事業と連動した情報コーナーでの展示を実施。令和3年度は、国内外の美術館や研究者から作品貸出や画像提供の依頼が多数あった。</p> <p>また、劇場の舞台裏や舞台機構、公演準備作業の様子などを案内するバックステージツアー11回を開催（R2は1回）。</p> <p>記者会見等による取材誘致、有料広告（紙面広告、交通広告、Web広告）、共催先等によるプロモーション等多面的な広報</p>	◎	◎

		<p>(7) その他</p>	<p>宣伝活動展開により芸文センターの認知度向上、新たなファンの発掘・裾野拡大、公演入場券の販売促進を積極的に展開。</p> <p>情報誌「ひょうご舞台芸術」（年2回/各6万部）や「公演スケジュール」（月1回・6000部）の発行、ホームページ、メールマガジン、SNS等により幅広く情報を発信。</p> <p>芸術文化センター先行予約会員制度（登録無料）会員数60,549人（県内34,300人、県外26,249人[R4年3月31日現在]）に会報誌（月1回・全会員あて送付）で、発売情報を案内することにより、発売日初日にチケットの約4割を券売する等、効率的な販売を実現。</p> <p>賛助会員制度（会員企業17社[R4年3月末]）の運営や、舞台芸術専門スタッフによる創造活動支援（施設利用者への舞台技術無料指導・支援）等を実施。</p> <p>【評価】</p> <p>薄井パレコ렉션（概要）のインターネット配信、主催事業と連動した展示（常設展・企画展）、特別展などの普及事業等を実施し、分かりやすく楽しめる企画によって開かれた事業展開を行った。</p> <p>バックステージツアーでは、11回で457名の参加があり、普段見ることができない舞台裏や舞台機構を案内し、好評を得た。</p> <p>多面的・戦略的な広報宣伝活動を展開した結果、約16万枚の券売数に対して券売率は82.6%となった。</p> <p>個別事業への冠協賛のほか、センターの多彩な活動に賛同し支援いただく賛助会員の協力が、事業実施の支えとなった。創造活動支援は、県民の公演の質の向上と施設利用率向上（リピーター確保）に大きく貢献。</p>																								
<p>利用者満足度調査結果（アンケート調査）</p>	<p>①観客アンケート（令和元年度実施） 主催事業（89事業172公演） 回答数7,715人 ・観客構成 県内：55%、県外：45% ・来場回数 初めて：13.3%、2回目：6.0%、3～5回目：13.4%、6～9回目：11.8%、10回以上：55.5% ※感染症対策により休止している紙によるアンケートを再開する方向で現在調整中（R4.6.22）</p>	<p>【実績】</p> <p>① 観客アンケート（満足層）</p> <table border="0"> <tr><td>・公演の満足度</td><td>98%</td></tr> <tr><td>・開館日・開館時間</td><td>73%</td></tr> <tr><td>・施設・サービス内容</td><td>86%</td></tr> <tr><td>・施設の清潔さ</td><td>93%</td></tr> <tr><td>・職員・スタッフの対応</td><td>90%</td></tr> <tr><td>・施設全体の満足度</td><td>92%</td></tr> </table> <p>②施設利用者アンケート（満足層）</p> <table border="0"> <tr><td>・ご利用後の全体的な印象</td><td>100%</td></tr> <tr><td>・舞台の大きさ、客席の広さ</td><td>99%</td></tr> <tr><td>・舞台機構、吊りもの、設備・備品</td><td>100%</td></tr> <tr><td>・照明設備</td><td>99%</td></tr> <tr><td>・音響設備</td><td>100%</td></tr> </table>	・公演の満足度	98%	・開館日・開館時間	73%	・施設・サービス内容	86%	・施設の清潔さ	93%	・職員・スタッフの対応	90%	・施設全体の満足度	92%	・ご利用後の全体的な印象	100%	・舞台の大きさ、客席の広さ	99%	・舞台機構、吊りもの、設備・備品	100%	・照明設備	99%	・音響設備	100%	<p>◎ ◎</p>	<p>◎ ◎</p>	
・公演の満足度	98%																										
・開館日・開館時間	73%																										
・施設・サービス内容	86%																										
・施設の清潔さ	93%																										
・職員・スタッフの対応	90%																										
・施設全体の満足度	92%																										
・ご利用後の全体的な印象	100%																										
・舞台の大きさ、客席の広さ	99%																										
・舞台機構、吊りもの、設備・備品	100%																										
・照明設備	99%																										
・音響設備	100%																										

		<p>②施設利用者アンケート (令和3年度実施) 貸館事業 (272事業 288公演) 回答数 75 団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の清潔さ 100% ・開館日・開館時間 96% ・舞台スタッフの対応 99% ・フロントスタッフの対応 100% ・申込・打合せ・公演当日の対応 100% ・今後、ホールを利用したい 99% <p>(R3年度施設利用者アンケートより)</p> <p>【評価】</p> <p>①観客アンケート 「公演満足度」は98%を超え、県民から非常に高い支持・共感を得ることが出来た。「施設全体の満足度」は92%と約9割の方々が満足している。観客構成については、県内居住者が観客の中心(55%)となっており、県民のためのパブリックアターとして支持されている。</p> <p>また、来場回数が「初めて」「2回目」の観客が19%を占めるが、「10回以上」のリピーターも56%にのぼり、新たなファン層を発掘し続ける一方で、センターを支える熱心なファンも定着し、顧客層の継続的な拡大と獲得に成功</p> <p>(R元年度アンケートより)</p> <p>②施設利用者アンケート 満足度は「舞台機構、吊り物、設備・備品」「音響設備」「施設の清潔さ」100%、「ご利用後の全体的な印象」、「フロントスタッフの対応」「申込・打合わせ・公演当日の対応」100%、ハード面・ソフト面において満足度はほぼ10割と、非常に高い評価を受けている。ホールを利用すればするほど、使い勝手のよさを体感でき、さらにニーズが高まるという傾向も見られる。(R3年度アンケートより)</p>		
利用状況	利用者数	<p>総来館者数 47.6万人 [前年度：22.2万人]</p>	<p>【実績】 総来館者数約47.6万人 (うち公演入場者数約28.3万人。その他、各ホール公演出演者・スタッフ、リハーサル室・スタジオ利用者、公開リハーサル入場者、各種イベント参加者など)</p> <p>【評価】 対令和元年度は67.7%、対前年は214%となり、来館者数は戻りつつある。</p>	◎	◎
	施設稼働率	<p>ホール稼働率 90% [前年度：80%]</p>	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大ホール：95% ・中ホール：91% ・小ホール：88% <p>【評価】 コロナウイルス感染症拡大の大きな影響を</p>	◎	◎

			受けつつも、貸館もあわせたホール利用率で平均91%を超える水準まで戻った。コロナ禍のなか、本格的な舞台芸術劇場としての存在感を県内外にアピールするとともに県民の多様な創造活動の発表の場を提供することができた。		
収支状況	収支計画と実績	<ul style="list-style-type: none"> ・総費用 26.6 億円 ・総収入 26.6 億円 (事業収入(自主財源含む) 9.6 億円、県補助金(事業基金) 3.8 億円、県補助金(一般財源) 5.4 億円、県指定管理料等 6.1 億円、施設使用料等収入 1.7 億円)	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・総費用 26.7 億円 ・総収入 26.5 億円 (事業収入 9.6 億円、県補助金(事業基金) 3.8 億円、県補助金(一般財源) 5.2 億円、指定管理料等 6.0 億円、施設使用料等収入 1.9 億円) 収支差 △0.2 億円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	電気一括入札等による光熱水費の削減 ネーミングライツ導入による財源の確保	【実績】 光熱水費△2,478 千円 (実績 81,828 千円-計画 84,306 千円) ネーミングライツ収入(県の取組): 行革取組として H20 より募集、年間 0.5 億円(うち 0.25 億円はセンター事業基金に積立)	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	第三者を含む運営委員会を設置し意見を運営に反映	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化及び社会経済情勢に精通した各界のリーダー・専門家に幅広い観点から意見をいただくため「運営委員会」を設置。令和2年度にコロナの影響で開催できなかった代替として R3.7 月にホラ公演に併せて開催。また、令和3年度委員会は、R4.1 月に書面開催し、センター運営にかかる意見を聴取 ・月2回経営会議を開催し、重要事項の決定のほか、各課の課題を共有 ・コロナ対策、安全衛生、ひょうごプレミアム芸術デーなど、テーマ毎に委員会やワーキングを設けて中堅・若手職員を中心に議論し、館の方針決定に寄与 ・設備・警備、清掃、舞台、フロント等の各委託業者から毎日報告を受けて状況を把握。また、定例委託会議を開催し、情報交換及び指示 ・空調・警備等の設備の定期的な保守・ 	◎	◎

		<p>点検等により、来館者に常に快適な劇場環境を提供し、芸文センターへの高い信頼を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民へ毎月の公演情報を連絡するなどして、近隣との良好な関係の構築 <p>【評価】 日々の課題へは各担当課で即時対応、重要案件については経営会議に諮るなど適切に対応した。また、運営委員会の開催のほか、専門家を招いて感染症予防勉強会を開催するなど、適宜外部専門家の意見を取り入れ、館の運営に反映させている。</p>		
危機管理体制の確保	緊急時対応マニュアル、消防計画に基づき確保（重要案件は経営会議）、機器は定期的にメンテナンス	<p>【実績】 消防総合訓練を2回・地震避難訓練を1回実施、各種機器（消防設備、昇降機、舞台機構、照明設備、音響設備等）の定期保守点検</p> <p>【評価】 全館を挙げて消防総合訓練を実施。設備等についても信頼のおける専門業者の定期保守点検を計画的に実施し、安全管理を行っている。</p>	◎	◎
県・関係機関との連携	県芸術文化課、県芸術文化協会本部と随時連絡・連携等する	<p>【実績】 毎月の県・協会本部との連絡会議を通して、綿密に情報交換を実施。公立文化施設協議会（県：会長）、公立文化施設協会（全国：理事、全国近畿支部：支部長、阪神：会員）、多面・大規模舞台劇場協議会にも参加し、県内外ホール間の連携を深めた。</p> <p>【評価】 県芸術文化課、県芸術文化協会本部と随時連携し、課題に対応した。また、公立文化施設協議会・協会への加盟を通じて他館との連携を深めながら、得られた情報を館運営に活用した。</p>	◎	◎
業務の再委託の状況	舞台運用業務、リハーサル室管理業務及び施設利用相談等業務、フロント業務及びチケットオフィス業運用務、建物設備・警備・入出者対応業務、クリーンキープ・植栽・楽屋機能維持業務等	<p>【評価】 各社とも高い職業意識と専門性を併せ持ったプロフェッショナル集団である。これら委託業者の仕事ぶりや業績がセンターの高い評価に貢献しており、民間活力を十分に活用できている。</p>	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

センターの「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、徹底した感染症対策を実施しながら事業推進を図った結果、令和3年度は、主催事業数・公演数の合計が120事業241公演となり、令和元年度の約75%まで回復した。また、貸館についても、令和2年度の159公演から令和3年度は288公演まで回復した。
(利用料収入：R2→47百万円、R3→140百万円)

令和4年度も、一層の経費削減、適切な設備保守、万全な感染症対策に努めながら、主催事業・公演数147事業279公演の実施をめざす。

また、令和7年度の開館20周年に向け、優れた人材の確保・養成、継続的な運営財源の確保、施設・設備の大規模修繕の計画など、中長期的にも安定的な運営体制の充実に努める。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部芸術文化課

施設名	芸術文化センター	現指定管理期間	令和元年～3年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○ 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、芸術文化協会が持つ専門性と蓄積されたノウハウにより、事業計画に基づきつつも機動的・柔軟に対応を行い、効率的で質の高い管理運営が実施されている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 施設・設備の維持管理において、新型コロナウイルス感染症対策に留意し清掃・点検等適切に実施されており、利用者の安全・安心及び快適性が確保されている。
- コロナ禍においても施設の稼働率は高く、施設利用者アンケートにおいても高い評価を得ていることから、施設運営の好調さを窺うことができる。
- 公演の縮小や海外招聘の中止等が続いたが、ガイドラインに基づき感染症対策に留意し、芸術監督プロデュースオペラやワンコインコンサート等、日本人アーティストを活用しながら多彩な公演事業を実施することにより、舞台芸術ファンの要望に応えるとともにすそ野拡大に努めている。
- 「わくわく Online オーケストラ教室」の配信や「青少年リモートレスン人材育成事業」の実施等、新たな取り組みにより青少年の育成に寄与している。
- 開館から15年以上が経過し、施設、設備の劣化が見られるため、今後も引き続き日常の安全点検等を実施し、不具合の早期発見に努められるとともに、次期大規模修繕に向け課題について整理願いたい。
- 少なくないクレーム等へ適切に対応しているが、今後とも丁寧な対応を継続願いたい。
- 観客アンケートについて、感染状況を踏まえ再開に向けて調整されたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
		S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県民会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県芸術文化協会	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	建物を管理し、かつ、美観維持を行う。 施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・階段・トイレ・窓ガラスなど)を行う。	清掃管理は適切に実施。貸会議室は使用終了毎、階段・トイレ等は毎日、団体事務所は週1回モップ掛け、各フロアのワックス掛けは年2～4回実施し、美観を維持。 新型コロナウイルス感染予防のため、共有スペースや設備、備品等の消毒・除菌対策を実施。使用頻度の高いトイレ、ロビーでは清掃頻度を高め、従来の日常・定期清掃に消毒・除菌対策も含め、椅子・テーブル、ドアノブ等接触部位は入念に清掃。床面は全館洗いワックスを行い、汚れを一掃している。	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降設備及びホール設備等運転・保守並びに空気環境・水質・防虫等の衛生管理を行う。	設備保守管理は適切に実施。点検等は定期的に行い、中央監視装置・電気設備・高架水槽：年1回、空気自動制御機器：年2回、水質検査：年3回、空気環境測定：年6回、防虫駆除・昇降設備：毎月。 なお、故障の判明した空調用冷温水機やポンプ、配管などの修繕や分解整備を実施。 設備の老朽化が顕著だが、常に設備機器の状態に注意し、諸設備の運転・保守及び衛生管理を適切に実施。 細やかなシステム管理で空調温度管理を向上。会館利用者や団体事務室の協力のもと夏季の電気温水器停止などで節電。今後も一層の電力削減を図る。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	植栽管理	施設周辺の美観維持を行うとともに植栽管理を実施する。	植栽管理を適切に実施。通路にはみ出た樹木や植物はその都度除去。咲き終わった植木の剪定など、建物の美観維持にもつなげた。	○	◎
	警備	施設全体の警備(常駐、夜間警備、巡回警備など)及び車庫、駐車場管理を行う。	施設全体(車庫含む)の警備を適切に実施。 常駐、夜間警備、巡回警備(朝、昼、夜9回)を実施。施設、エレベータ及び車庫内の監視カメラ等で常時、不審者の入館を監視。 巡回警備では、団体事務所等施錠確認、不審者等の監視、窓ガラスの破損等利用者の安全に気を配りながら、駐車場を含めた施設全体の警備・管理を実施。	○	◎
	小規模修繕	施設利用者に快適に利用していただくよう心がけており、また、日常の業務に支障のないよう修繕を行う。	冷温水配管からの漏水や車庫共用部天井剥落など、施設の管理・運営上、支障となる個所は迅速に修理・補修等を行った。 新型コロナウイルス感染症対策として、国・県からの補助を受け、ホール等への空気清浄機の設置、音響設備の改修(デジタル化)、館内のWi-Fi機器整備を行うなど、利用者に対する安心・安全の確保や利便性・魅力の向上に努めた。	◎	◎
	法定点検の実施	建物・設備・環境衛生などについて法令等の規定に基づき、有資格者による点検・調査を実施する。	施設、設備、備品等の日常点検に加え、定期点検として法令等に定める基準に従い有資格者や技術員による点検・調査を実施。異常等判明した場合は迅速に修繕等の措置をとった。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	<p>1 休館日 (1) 1月1日～3日及び 12月29日～31日 (2) 4月第3日曜日 (3) 6月、8月の第3日曜日</p> <p>2 開館時間 午前9時から午後10時</p>	<p>1 休館日 (1) 1月1日～3日及び 12月29日～31日 (2) 4月19日 (3) 6月20日 (4) 8月14日<臨時>、15日</p> <p>2 臨時休館 4月25日～5月11日</p> <p>3 開館時間 午前9時から午後10時</p> <p>休館日に消防設備や電気・ガス設備の点検、汚水槽・雑排水槽の清掃を実施。開館時に実施できない懸案事項を適切に処理した。</p> <p>年度当初4月下旬に新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発出され、臨時休館となった。</p> <p>県対処方針に基づき、10/21まで21時までの時短を要請したほか、1月にはオミクロン株の感染急拡大が生じるなど、会館運営では年度末まで新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け続けた。</p>	○	◎
	公共性・公平性の確保	<p>すべての会館利用者への平等・公平・公正な利用機会の確保</p>	<p>1 ギャラリー ギャラリー運営会議への諮問・承認(年3回開催)</p> <p>2 会議室・ホール 予約申込初日に抽選(メール、FAXで申込可能)</p> <p>3 施設・設備や空室状況の情報提供 ホームページへの掲載や空期間の展示室のPRチラシなどにより情報提供</p> <p>ギャラリーは利用者から提出された利用計画書に基づき、日程調整のうえ、ギャラリー運営会議に諮り承認。</p> <p>また、その他貸室は先着順を前提に抽選を行い公平な運営に努めた。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	各種事業・プログラムの 実施状況	芸術文化の鑑賞や生涯学習の機会などを提供し、県民文化の向上を図るため、展示事業その他の文化事業を行う。	<p>1 県民会館の利用促進に資する事業 会館の利用促進を図るため、生涯学習や芸術文化活動への参加機会を提供する事業を実施。</p> <p>2 県民文化の向上に資する事業 会館周辺でのコンサートや顕彰事業、文化情報提供事業など県民文化の向上に資する事業を実施。</p> <p>3 公益文化事業を支援する募金の募集 1階フロントに募金箱を設置し募金活動を実施。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により中止となった事業も発生したが、県からの補助金等を活用したコンサートやバーチャルギャラリーの実施など、コロナ禍の状況に即した各種芸術文化事業を展開し、芸術鑑賞や生涯学習などの機会を提供し、会館の利用促進につなげた。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	業務の質とサービスの向上を図ることを目的に、利用者等から運営に関する意見を聴取する。	<p>アンケート調査の実施 実施期間：R3.7.17～7.25 R4.3.22～4.9 (感染拡大期を避けて実施) 調査内容 開館日・開館時間、施設・サービス、施設の清潔さ、職員・スタッフの対応、施設全体の満足度(5段階評価：平均評価4.2～4.6)</p> <p>アンケート調査の結果では、「開館日・開館時間」と「施設全体の満足度」を除き、大変満足とやや満足の合計が80%を超えており、利用者は概ね満足している。 「開館日・開館時間」(78.0%) 「施設全体の満足度」(78.0%) ※どちらも3月の実施結果</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	できるだけ多くの県民に利用 いただけるよう心がける [前年度:235,984人]	令和3年度利用者数 297,950人 徹底した感染対策を行い来館者に安心・安全な環境を提供したが、感染拡大第4波で4月下旬から17日間の臨時休館となった。以降も年度を通じて第5波、第6波と感染拡大が生じ、外出自粛ムードが払拭されず、来館者は前年度を若干上回るに留まった。 (元年度利用者数:480,028人)	○	◎
	施設稼働率	できるだけ多くの県民に利用 いただけるよう心がける [前年度:49.2%]	11階ホール 46.2% 9階ホール 55.9% 会議室 52.7% 集会室 49.3% 宴会室 49.9% ギャラリー 28.0% 付属駐車場 延31,230台 専用車庫 526台 ホールや会議室、ギャラリーの利用率(48.7%)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、前年度比99%と同水準で推移した。 毎月1日に実施するホール・会議室の抽選申込は、メール・FOX等の事前申込でも受け付け、抽選も非対面で行えるようにし、安全性や利便性を向上させた。	○	◎
収支状況	収支計画と実績	収支のバランスを考慮した事業計画の実施。 R4計画 ＜収入計 231,446千円＞ 施設利用料 191,107 会館運営 40,339 ＜支出計 231,446千円＞ 人件費 30,976 物件費 105,370 還付金 95,100	R3決算 ＜収入計 195,798千円＞ 施設利用料 140,133 会館運営 40,014 県受託事業 9,881 国庫補助金 5,430 民間助成金 66 雑収益 274 自己負担 3,471 ＜支出計 199,269千円＞ 人件費 29,890 物件費 111,937 還付金 57,442	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支 状況	経費節減に向けた取組	利用者の快適性を損なわずに節減に取り組む	室内温度の制御 団体事務室や会館利用者が使用する会議室については、設定温度を細やかに制御。 兵庫県の電力一括購入に参加し経費節減を図った。	◎	◎
	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の苦情要望に応え、快適な環境を提供する。	利用者からの苦情要望等に、迅速かつ丁寧な対応を図ることで、適切に処理。 重要案件については、定例連絡会議に諮るなど適切に対応。	○	◎
運営 体制	危機管理体制の確保	年2回の消防訓練を行い、緊急事態に備える。 県民会館は、令和元年から帰宅困難者の一時滞在施設となり、豪雨や地震等災害による緊急事態に公的施設としての役割を果たす。	所轄消防署に届出し、県民会館入居団体の職員も参加する総合消防訓練・防災訓練を実施。緊急連絡網を整備するとともに、病人の発生時の救急車の発動要請や警察への通報・連絡等を行った。 県・市・民間施設で構成する「三宮駅周辺地域帰宅困難者対策協議会」の作業部会に参加。周辺施設等と発災時における対処方針や連絡網などを情報交換。	○	◎
	県・関係機関との連携	県、市、消防、警察等機関と連絡をとり、安全、安心な環境の保持に努める。	毎月の定例連絡会議を通して、所管課や協会本部と綿密に情報交換するなど、関係機関との連携を適切に図った。 また、芸術文化関係合同会議や公立文化施設協議会(県・阪神)にも参加。	◎	◎
	業務の再委託の状況	清掃等ビル管理業務、昇降機保守業務など施設・設備等の保守管理に係る業務などを再委託。	有資格者等による法定点検業務等も含め、施設・設備等の保守管理に適切な事業者を会計規程に基づき選定・委託。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

令和2年度に引き続きコロナ禍のもと、利用者数や施設稼働率が伸び悩み、収支差額が発生し赤字(3,471千円)となったが、国・県の補助金を活用した音響設備の改修やWi-Fi機器整備など新たな利用促進につながる取り組みも進めることができた。

令和4年度も引き続き感染症対策に万全を期す一方、コロナ禍終息後に向けて利用動向を見極めながら、コロナ禍前である令和元年度水準の利用者数や施設稼働率を目指し、利便性やサービスの向上、コスト削減・業務の合理化に努めていきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部芸術文化課

施設名	兵庫県民会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○事業計画に基づいた、適切な管理運営が実施された。
 ○施設が老朽化しているが、小修繕等適切に対応しており、施設の保守安全管理において配慮が行き届いている点が高く評価できる。
 ○昨年度に引き続き1年を通して新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、経費削減に努め、収支安定化を目指した。
 ○館内清掃など感染症対策を徹底するとともに、利用者へ丁寧な説明を行い理解を求め、安心安全な運営を行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○利用者アンケートにおいても概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。
 ○引き続き、安全・安心かつ快適な施設の提供と利用者サービス向上に努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	県立美術館王子分館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	<p>日常清掃業務・ゴミ処理業務 ・展示室、トイレ、共同部門等 (毎日) 定期清掃業務 ・ワックス塗布、ガラス清掃 (各1回/年)</p>	<p>日常清掃業務・ゴミ処理業務 ・展示室、トイレ、共同部門 等(毎日) 定期清掃業務 ・ワックス塗布、ガラス清掃 (各1回/年)</p> <p>清掃は委託業者により施設 全体を行っている。日常清 掃、定期清掃等を適切に行 っており、清潔な施設を常に 維持するよう努めている。</p>	○	◎
	設備保守管理	<p>昇降機設備・自家用電気工作 物(1回/月) 消防設備(2回/年) 空調設備・空調機自動制御機 器(2回/年) 駐車場管理(24時間電話対応・ 1回/年) 自動扉保守点検(2回/年) 重量シャッター保守点検 (1回/年)</p>	<p>昇降機設備(オーチス製・日 立製・フジテック製) / 自家 用電気工作物(1回/月) 消防設備(2回/年) 空調設備・空調機自動制御 機器(2回/年) 駐車場管理(1回/年) 自動扉保守点検(2回/年) 重量シャッター保守点検 (1回/年)</p> <p>王子分館として、適正かつ安 全な維持管理業務を遂行し た。空調設備において、年2 回機器の保守点検を実施す ることにより、故障を防ぎ、 計画的に機器の入替を検討 できるようにした。昇降機に おいても、法令点検などを 含む保守手点検を継続実施 し、定期報告に基づいた維 持管理を遂行できた。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管 課
維持 管理 業務	植栽管理	芝生手入れ(4回/年) 害虫防除(2回/年)、雑草発芽 抑制剤散布(3回/年) 樹木手入れ(1回/年)	芝生手入れ(4回/年) 害虫防除(2回/年)、雑草発 芽抑制剤散布(3回/年) 樹木手入れ(1回/年) 造園業者による植栽管理を 実施した。また、中庭高木の 剪定など美観の回復に努め た。	◎	◎
	警備	常駐警備業務(設備運転)・巡 回業務 (美術館部門は24時間警備) 機械自動警備(夜間・休日含 む)	常駐警備業務・巡回業務 (1日5回以上) 原田の森配置は設備運転兼 務 (美術館部門は24時間警 備) 機械自動警備(夜間・休日含 む) 適切な安全保安業務を行う ことができた。原田では、29 年度より施設保安警備と設 備運転業務を兼務し、日常 管理業務の効率化を図っ た。横尾忠則現代美術館で は、24時間警備により、作品 の適切な管理など、対外的 にも安心・信頼できる美術館 仕様として対応できた。	○	◎
	小規模修繕	施設内不良箇所の修繕	・横尾忠則現代美術館東側 一部壁面改修工事 ・原田の森ギャラリー東館B2収 蔵庫系統空調機修繕 ・原田の森ギャラリー別館客用 エレベーター機能維持工事 ・原田の森ギャラリー監視カメラ 増設工事 ・喫茶棟空調機修繕 ・横尾忠則現代美術館外壁 扉遮蔽対策工事 安全・安心を確保するうえで 急施を要するものについて 早急に修繕を実施。利用者 が快適に施設を利用できる よう、また、寄贈・寄託を受け ている作品等を適切に保 管、管理できるよう努めた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管 課
維持 管理 業務	法定点検の実施	法定点検を実施し、適正な保全業務を行う。	<p>消防点検(機器点検(2回/年)・総合点検(1回/年)) 昇降機定期点検(1回/年) 自家用電気工作物(月次点検・精密点検(1回/3年)) 空気環境測定(6回/年) 水質検査・雑排水槽清掃・害虫駆除・IPM防除(2回/年) 貯水槽清掃(1回/年) 雑排水管洗管(2回/年)</p> <p>建築基準法、消防法等法令に基づく定期検査の実施により、利用者が安全・快適に使用できるように務めた。</p>	○	◎
運営 業務 (共通)	開館日・開館時間等	<p>休館日 ①原田の森ギャラリー 12/29～1/3、毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ②横尾忠則現代美術館 12/31～1/1、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>開館時間 ①原田の森ギャラリー 午前10時～午後6時 ②横尾忠則現代美術館 午前10時～午後6時 (展覧会会期中の金曜日及び土曜日は午後8時まで)</p>	<p>休館日 ①原田の森ギャラリー 12/29～1/3、毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ②横尾忠則現代美術館 12/31～1/1、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>臨時休館(新型コロナウイルス感染症対策) R3.4.25～5.11 開館時間 ①原田の森ギャラリー 午前10時～午後6時 ②横尾忠則現代美術館 午前10時～午後6時</p> <p>ギャラリー部門、美術館部門ともに、県の新型コロナウイルス対処方針等に従い、館内の消毒・清掃、来館者への感染症対策呼びかけ(美術館は、これに加え、金・土曜の夜間開館の取りやめ)等を行い、感染防止に努めた。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
運営業務（ギャラリー）	公共性・公平性の確保	すべての来館者への平等・公平・公正な利用機会の確保	<p>ギャラリー運営会議での承認（年3回開催） 先着予約の徹底（会議室等） ホームページでの施設の詳細、空室状況提供、空期間の展示室をPRするチラシ作成、案内など</p> <p>利用者から提出された利用計画書に基づき、日程調整のうえ、原田の森ギャラリー運営会議に諮り承認している。また、その他貸室は先着順を前提とし、公平な運営に努めた。</p>	○	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	貸し展示室・貸し室業務 各新聞社等への情報提供、インターネット等活用による広報	<p>広報活動の充実（展覧会案内の作成） インターネットを活用した積極的な情報発信 近隣の公共施設や地域の掲示板及び公共交通機関と連携した広報活動</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、中止または延期となった利用分（利用予定日 R3.4.5～R3.10.30、緊急事態宣言等期間+1ヶ月）の施設利用料については、県の取扱いに基づき全額返還（展示室） 中止 19 件、延期 2 件</p> <p>展覧会案内の作成・配布やホームページ情報を随時更新し、リニューアル後の貸し館業務の充実に努めている。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケート調査の実施	<p>毎回、利用後に満足度調査アンケートを実施 利用者満足度アンケートでは高い評価を得ており、良好なサービスを提供できた。リニューアル後の感想も概ね良く、利用者の満足度も高い。また、利用者の声を管理運営に反映させるよう努める。</p>	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
運営業務 (美術館)	展覧会	絵画、版画、ポスターなど横尾作品のコレクションを軸に年3回の企画展を開催	<ul style="list-style-type: none"> ・Curators in Panic～横尾忠則展 学芸員危機一髪 ・YOKOO TADANORI COLLECTIO GALLERY 2021(前期) 会期:R3.3.27～R3.8.22 ・横尾忠則の恐怖の館 ・YOKOO TADANORI COLLECTIO GALLERY 2021(後期) 会期:R3.9.18～R4.2.27 コロナ禍のため、臨時休館や展覧会の中止を余儀なくされたが、最終的には、年2回の企画展とコレクションギャラリー展を開催し、これまで展覧会入場者数約27万人、関連イベント等も含めた総入館者数54万8千人となり、館の認知度の向上と展覧会の集客に努めた。	◎	◎
	作品の収集・保存	横尾氏から寄贈・寄託の申し出のあった作品、資料等の寄贈・寄託手続き及び適切な保管	横尾作品絵画1点(「鎮魂の海」)を購入、またあわせて絵画2点の寄贈を受け、適切に保管。 寄贈・寄託作品及び購入作品を美術館収蔵庫にて、適切な環境で保管を行うことができた。	○	◎
	広報	展覧会やイベント等について効果的な広報を展開	JR、阪急、阪神、神戸市営地下鉄他の交通広告 NHK、サンテレビ、神戸新聞外報道各社の取材等 地元商店街への展覧会チラシ配布 美術館ニュースの発行(26号、27号) ホームページ、ツイッター、フェイスブックでの情報発信 三宮センター街へのタペストリー掲示 等 展覧会ごとに、ターゲットを絞った広報を展開するとともに、ツイッター・フェイスブック・インスタグラムで若者層への浸透を図った。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
	展覧会関連事業	展覧会の関連事業やオープンスタジオを活用した各種事業を展開	キュレーターズ・トーク (4/24、5/22、6/26、10/16、 11/20、12/18、1/15) ギャラリー・トーク配信 (6/12、10/15)など コロナ禍における美術館の 新たな取組として、著名人と 横尾作品のコラボ映像やキュ レーターズトーク等の動画 の制作・配信を実施し、新た なファン層の開拓に努めた。	◎	◎
	受付・案内	管理責任者業務(毎日) 受付、案内業務(毎日) 観覧券券売業務(毎日:展示替 え日は除く) 改札、監視業務(毎日:展示替 え日は除く) 物品販売業務(毎日)	管理責任者業務(毎日) 受付、案内業務(毎日) 観覧券券売業務(毎日:展示 替え日は除く) 改札、監視業務(毎日:展示 替え日は除く) 物品販売業務(毎日) 利用者の評判も大変よく、ス マートな接遇ができた。	◎	◎
利用 状況	利用者数	前年度の利用者数を維持しつ つ、さらに増加を図る。 [前年度] 全体年間利用者数 82,931 人 原田の森ギャラリー 53,703 人 横尾忠則現代美術館 29,228 人	全体年間利用者数 145,252 人 原田の森ギャラリー 100,867 人 横尾忠則現代美術館 44,385 人 新型コロナウイルス感染症 拡大に伴い、4 月 25 日から 5 月 11 日まで臨時休館した が、その後はまん延防止等 重点措置や緊急事態措置の 指定期間中においても感染 防止対策を徹底しながら開 館し、ギャラリーの来館者数 は約 10 万 1 千人まで回復、 造形芸術の発表・鑑賞、創 作・交流の場の役割を果たし た。 美術館の来館者は 4.4 万 人、展覧会入場者数は 2.7 万人、新型コロナウイルス感 染症対策のため 4-5 月に休 館をしたが、展覧会入場者 数は前年度(1.4 万人)を上回 るまで回復した。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
利用 状況	施設稼働率	<ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室の平均利用率 85% ・展示室全体の平均利用率 85% ・施設全体の平均利用率 65% [前年度] <ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室 49.4% ・展示室全体 48.8% ・施設全体 51.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室 86.0% ・展示室全体 80.5% ・施設全体 69.2% 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、R2 年度は利用者のキャンセルが相次だが、本館1階展示室 86.7%、本館 2 階大展示室 85.3%、東館1階展示室 87.4%、東館 2 階展示室 62.8%、全体で 80.5%と大きく回復し、感染症対策を講じ、利用者の意向を踏まえながらコロナ禍以前の利用率への回復に努めている。	◎	◎
収支 状況	収支計画と実績	R4 計画 収入 179,381 千円 <内訳> 指定管理料 106,721 利用料収入 25,564 補助事業収入 42,496 協会負担 4,600 支出 179,381 千円 <内訳> 人件費 52,667 管理費 84,218 補助事業費 42,496	R3 実績 収入 219,834 千円 <内訳> 指定管理料 113,950 利用料収入 41,372 運営収入 95 ショップ収入 10,092 展覧会配分金 657 補助事業収入 49,668 助成金 4,000 支出 219,834 千円 <内訳> 人件費 50,316 管理費 115,880	◎	◎
	経費節減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務経費の見直し ・光熱水費の削減 ・節電による環境負荷の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務経費の見直し ・光熱水費の削減 ・室内温度管理の徹底 空調設備保守業務と空調自動制御機器保守業務を統合して館全体の空調を一括管理することにより、経費節減を図った。また、空調機器の部品交換・清掃等きめ細かいメンテナンスを施すことにより、省エネを実現し光熱水費削減を図ることができた。さらに、消耗品には積極的に省資源・リサイクル製品を購入した。 ・送風による冷房用エネルギーの削減 ・再生紙の活用 	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管 課
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケート調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場案内表示の設置、改善 ・駐車場における苦情処理(券発行など) ・空調設備の微調整、修繕整備 ・監視カメラの増設(防犯) 苦情処理の処理体制を整備するとともに、利用者からの苦情・要望や、敷地内の迷惑行為などは職場ミーティングにおいて、職員全員に周知し迅速・的確な対応を行った。	○	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡網整備 消防訓練の実施	緊急連絡網の整備 警備会社との連携 消防訓練の実施 緊急連絡網を作成し、迅速に対応できるような危機管理体制を整えている。 防火管理者を配置し、職員全員を対象に年2回の消防訓練を実施した。 また、避難経路の確認、消火設備の点検を行い、危機管理に対して万全の処置を講じた。	○	◎
	県・関係機関との連携	県や関係課との緊密な連絡・協議のもとで施設を運営	県芸術文化課との緊密な協議 定例会議による県への要望の取りまとめ 県芸術文化課とは緊密に連絡を取り、協議を重ね連携を図った。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
運営 体制	業務の再委託の状況	施設の清掃、警備、設備管理、 受付業務等の再委託	(指名競争入札) ・清掃警備等設備管理業務 ・空調設備保守点検 (見積り合せ) ・消防設備点検 ・庭園維持管理業務 ・重量シャッター保守点検 ・自動扉保守点検 ・自家用電気工作物保守点 検 (随意契約) ・機械自動警備 ・昇降機保守点検 ・駐車場運営管理業務 ・ショップ・レジ保守点検 (プロポーザル) ・受付・監視・ミュージアム ショップ販売業務 ギャラリーと美術館という性 質の異なる施設の維持管理 業務を一体的に行うことによ り、適正かつ効率的な業務 の遂行を確保するため、各 業務内容や規模に応じた方 法で業者を決定した。さら に、長期継続契約を実施す ることにより、経費の節減を 図った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設維持管理業務、運営業務共に経費節減等による収入確保や、利用者の利便性・安全性を重視し、適切な管理運営を行うことができた。アンケートも非常に高評価であり、利用者から意見があった場合、可能な限り対応した。令和3年度も4、5月に新型コロナウイルス感染症拡大防止による休館があったものの、再開後は感染対策に留意しながら運営にあたり、ギャラリー利用率や美術館入場者数などは概ねコロナ前の水準まで回復するなど、良好な管理運営ができていると考える。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部芸術文化課

施設名	県立美術館王子分館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○芸術文化協会が持つ専門性と蓄積されたノウハウにより、事業計画に基づいた、効率的で適切な管理運営が実施された。

○コロナ禍で落ち込んだ前年度の施設利用率を大きく回復させ、ほぼ例年並みに戻っている。利用者アンケートにおいても高い評価を得ていることから、施設運営の努力と好調さを窺うことができる。

○施設・設備の維持管理においても、日常の清掃・点検が適切に実施されており、利用者の安全・安心及び快適性が確保できた。

○その他利用促進と経費削減につとめることで、収支安定を図った。

○美術館事業でも、展覧会関連事業としてアーティストトーク、ミニライブ、オープンスタジオコンサートなどの多彩なイベントを企画実施するなど、入館者数増加への努力が評価できる。

○来場型のイベントに加え、動画配信にも取り組み、with コロナの時代にも柔軟に対応している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○利用者アンケートにおいても概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

○引き続き、安全・安心かつ快適な施設の提供と利用者サービス向上に努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	ひょうご女性交流館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	一般財団法人兵庫県婦人会館	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃、臨時清掃	日常清掃(毎日)、臨時清掃(年2回)	◎	◎
	設備保守管理	空調・受水槽・消防・電気・エレベータ	年2回～6回実施	◎	◎
	植栽管理	施肥、剪定	年1回	◎	◎
	警備	会館時は職員、閉館時は機械	毎日実施	◎	◎
	小規模修繕	緊急性のあるものから順次	必要に応じて随時実施	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備、害虫駆除等	年2回実施	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	日祝・年末年始休館、9時～21時開館	規程どおり実施	◎	◎
	公共性・公平性の確保	設置管理条例を遵守	規則等を遵守	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	該当なし			
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	年1回実施	ほぼ満足が91%	◎	◎
利用 状況	利用者数	前年度並み [前年度:5,279人]	5,293人	◎	◎
	施設稼働率	前年度並み [前年度:71.7%]	64.8% (190日/293日)	○	○
収支 状況	収支計画と実績	利用料収入 5,177千円	利用料収入 4,372千円	○	○
	経費節減に向けた取組	事業費支出の削減	光熱水費、事務費の節減	◎	◎
運営 体制	苦情要望等の対応体制・内容	窓口職員が対応	丁寧な対応を心がけている。	◎	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡先、委託先の把握	窓口に貼付、関係者に配布	◎	◎
	県・関係機関との連携	県所管課との連携	連携体制を築いている。	◎	◎
	業務の再委託の状況	清掃、設備保守、警備等を委託	専門業者に業務委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

ほぼ計画どおり実施できているが、引き続きメールを利用した予約受付の促進による利用者確保及びこまめな節電等による経費節減に努めていく。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部男女青少年課

施設名	ひょうご女性交流館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	一般財団法人兵庫県婦人会館	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者へのアンケートによる職員・スタッフの対応の満足度調査では、91%がほぼ満足の評価を受けているほか、こまめな消灯等による光熱水費の削減など経費節減に努めている。また、(一財)兵庫県婦人会館は、県内最大の女性団体である兵庫県連合婦人会と非常に密接な関係性を有するとともに、兵庫県栄養士会や兵庫県いずみ会等その他の女性を中心とする有力団体とも強い関係性を有しており、女性の活動の活性化、団体間の連携強化等が図られ、多くの女性団体が利用し様々な活動を展開することにより、女性の社会参加の促進に向けた活動が行われている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

新型コロナウイルスの影響による利用者の落ち込みはあるものの、全体として施設稼働率を上げる必要があると考えられるため、県民に広く広報するなど会館利用促進を図る取組を実施するよう指導、

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	いえしま自然体験センター	現指定管理期間	令和3～5年度(3年間)
指定管理者	(一社)いえしま自然体験協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	ロッジ等貸出施設の新型コロナ対策による消毒 (毎回)	使用ロッジを定数の半分に減らし、利用者が重ならないよう対策をした。その間に徹底した消毒を行い、利用者が安心して利用できるよう対策した。	◎	◎
	設備保守管理	ロッジ汚水経路の保守管理 (年1回)	汚水路の隙間より植物の根が侵入し排水路が塞がり、トイレの排水が詰まることを予防した。	○	◎
	植栽管理	工作物に接触する樹木及び利用者の活動に差し支える樹木の剪定や枯れ木の伐採 (随時)	工作物の維持保全のため、幹線道路や連絡道だけでなく、ロッジやテントサイト回りも含めてエリア全体の樹木の剪定・伐採を実施	◎	◎
	警備	場内巡視 (1日2回)	場内巡視 毎日2～3回 台風や大雨などの非常時には、その都度職員全員で巡視。	○	◎
	小規模修繕	共用部の水道を非接触型に改修	新型コロナウイルスの感染予防対策として、不特定多数の人が直接手に触る場所の水道を非接触型に改修した。	○	◎
	法定点検の実施	自動火災受信盤等の点検 (年1回)	管理棟の火災受信盤の動作確認及びロッジ等の各施設への放送設備点検・消火器の使用期限の点検を実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	年中無休 (365日宿直の実施)	年中無休 利用者が安心・安全に利用できるよう365日宿直体制を実施した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	誰もが安心・安全に利用できる施設運営	乳児・高齢者・身体障害者等の歩行困難者は船着き場までの送迎の実施。 利用申込期日の厳守	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	各種事業・プログラムの実施状況	年17回の自主事業を計画 (うち実施事業10事業)	海の環境学習の拠点施設として、プログラムのさらなる充実と広報の充実をめざしたが新型コロナウイルスの影響により7事業が中止となった。	△	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	実施なし		×	×
利用状況	利用者数	令和3年度実績12,662人 [前年度:10,781人]	新型コロナウイルスの影響による施設の閉鎖やロッジの人数制限により、日帰り客が微増した一方で宿泊者数が減少した。	△	△
	施設稼働率	令和3年度実績 8.5% [前年度:8.0%] ロッジ稼働率	新型コロナウイルスの影響による施設の閉鎖により、宿泊者数が減少し、ロッジ稼働率も前年度並みとなった。	△	○
収支状況	収支計画と実績	令和3年度実績△209千円 令和2年度実績 637千円	食材等の価格高騰によりマイナス収支となった。	△	△
	経費節減に向けた取組	オンラインミーティングの活用	主催事業の打合せに ZOOM 等を活用し、交通費(旅費)の削減を行った。 また、大人数で集まる機会を減らすことにより、新型コロナウイルスの感染拡大防止にもつながった。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者情報の共有	毎朝、出勤職員全員で利用者の情報共有を行い利用者の情報を共有した。	○	○
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルを作成のうえ、火災訓練の実施をした。	屋内消火栓の動作確認・消火器の使用方法・小型消防ポンプの動作確認を行った。	○	◎
	県・関係機関との連携	兵庫県青少年本部・兵庫県職員互助会・ひょうご環境体験館との連携	オフラインキャンプで先駆的な事業をサポートするとともに、環境学習・野外活動において関連団体とそれぞれの特徴を活かした事業を行った。	○	◎
	業務の再委託の状況	該当なし		◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数・施設稼働率・収支状況については厳しい面があったが、利用者に対する対応・施設管理面については概ね目標に達する事が出来た。

令和4年度についてはロッジの使用制限も緩和し利用者増を見込んでいるので、アンケート調査を実施して利用者のニーズの把握に努め、新たなプログラム開発や利用者増に繋げていきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部男女青少年課

施設名	いえしま自然体験センター	現指定管理期間	令和3～5年度(3年間)
指定管理者	(一社)いえしま自然体験協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・限られた予算の中で、利用者の安全確保を第一に考え、緊急修繕等を優先的に実施するなど、施設の維持管理業務は、適正に行われている。
- ・コロナ禍により、施設利用制限や学校利用方法の変更（宿泊→日帰り）があり、利用実績は低迷したが、感染症対策の徹底等により、利用者の安全に配慮しながら、施設運営に努めている。
- ・就労支援など、新たな取組みを開始したことは評価できる一方で、利用者や収入増に向けて、新たな事業実施や広報等にも、引続き取組んでもらいたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・安全点検や経費削減等への取組みが日常的になされており、特に、緊急時の対応については、地元消防との連携や職員の応急訓練等実施等により、意識が高いといえるため、今後も継続する必要がある。
- ・個別に利用者アンケートを実施した自主事業はあるものの、全利用者へのアンケートは未実施のため、利用サービス向上等に向けた分析が十分でない。
- ・令和4年度は利用者アンケートを開始し、利用サービス向上への分析を実施するよう、指定管理者に対して依頼した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目
A		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	県立神出学園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)を行う。	週2回の定期清掃を清掃業者に委託した。また、年3回、園内美化の日を設け、職員・学園生で敷地内の清掃を行った。	◎	◎
	設備保守管理	園内施設における電気・ガス・給排水・衛生・消防・ボイラー設備等の運転・保守並びに水質・防虫等の衛生管理を行う。	各設備の保守管理を設備業者に委託し、定期的な点検保守を行った。	◎	◎
	植栽管理	園内の植栽管理を行い、学園内の自然環境を整備する。	学園内の除草作業や花壇整備により、園内の美観を維持できた。	◎	◎
	警備	施設全体の警備を行う。	土日・祝日等の休園日の昼間に日直代行員を配置するとともに、夜間の機械警備を外部業者に委託した。	◎	◎
	小規模修繕	施設の老朽化等による不具合・故障箇所の修繕を行う。	経年劣化による故障等について施設内の安全点検を行い、修繕工事を実施したことで、適切に建物を維持管理できた。	◎	◎
	法定点検の実施	必要な項目について適宜点検を実施して、安全に施設管理を行う。	必要な項目の法定点検を実施し、安全な施設管理ができた。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	学園生の宿泊にあわせて年間のプログラム・行事を設定し、日曜日及び土曜日、夏期・冬期休業日以外の日に開館日を設けて業務を行う。	学園生の宿泊にあわせて、国民の祝日に開館日を設定し、振替業務を行うことで、効率的な業務運営ができた。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	学園生を広く募集し、選考を経て入学の許可を行う。	記者発表やホームページ掲載等による広報を通じて学園生を募集した。選考は2次選考まで実施し、外部委員からなる選考会議で入学者を決定し、公正・公平な選考ができた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	毎日の生活や多彩なプログラムの中で、個々の学園生に適した支援を行う。	個に適した支援、生き方や進路選択の支援、自主性・創造性の伸長の支援、相談を通じ個々の成長支援等多彩な支援を行った。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケート調査を実施し、利用者が満足のいく支援を提供する。	各種行事・プログラム等の終了時や学園生活の振返り等のアンケート調査を実施した。調査結果を分析しながら、満足のいく支援に努めた。	◎	◎
利用状況	利用者数	必要な数の新入生を受け入れる。	令和元年度生(33名入学) 令和2年度生(29名入学) 令和3年度生(24名入学)	○	△
	施設稼働率	—	—	—	—
収支状況	収支計画と実績	R3計画 収入 指定管理料 93,741千円 支出 人件費 71,420千円 その他経費 22,321千円	R3実績 収入 指定管理料 97,779千円 支出 人件費 71,931千円 その他経費 25,848千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	人件費、事務的経費の節約に努める。	コロナ禍の中、各種行事を見直し事務的経費を節約した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望等に対応するため、事業後にアンケートを実施し、参加者のニーズを把握する。	アンケート結果を分析することで、参加者のニーズを把握し、可能な範囲で要望に応えることが可能となった。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害発生時に備え、職員行動マニュアルを作成するとともに消防訓練等を実施する。	職員・学園生を対象に消防訓練等を行うことで、危機管理意識の醸成につながった。	○	◎
	県・関係機関との連携	通信制の県立高校と連携を行い、高卒資格取得を支援する。	県立網干高校、県立青雲高校等の通信制課程との単位連携による履修単位認定を行い、進学希望者への支援を強化することができた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	運営業務の再委託は行っていない。	—	—	—

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

令和3年度も上記の「実績・評価」のとおり、適正に各事業を執行した。
令和4年度は、令和3年度までの事業実績や評価を踏まえ、引き続き適正な事業執行に努める。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部男女青少年課

施設名	神出学園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・限られた予算の中で、施設の維持管理・運営が、適正に行われている。
- ・地域貢献・地域交流プログラムとして、ボディーワークやソーシャルスキルトレーニング等、学園生の表現力や協調性、社会性をのばすカリキュラムの提供に努めている。
- ・豊かな人生経験を持つメッセージ性の高い外部講師による講演会を実施するなど、学園生の視野を広げ、元気回復の一助となる機会の提供に努めた。
- ・通信制高校との単位連携を強化するなど、学園生の進路の支援に努めた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・安全点検や清掃、植栽管理等への取組みが定期的・計画的に実施されており、今後も継続する必要がある。
- ・定員割れがつづいている状況のため、入学者数獲得に向けたさらなる取組みが必要である。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目
S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	こどもの館	現指定管理期間	令和2～4年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	日常清掃(床面、毎日・毎週・毎月)、定期清掃(窓ガラス・換気扇・照明器具・天井・川池年1～4回)、塵芥集積処理	業務委託している清掃作業員による清掃を実施し、こどもの館の景観を美しく保つことができた。	◎	◎
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ○冷温水発生機運転管理及び照明機器保守管理(作業員常駐) ○空調等自動制御機器保守点検(総合点検年1回、シーズン切替年2回) ○吸収冷温水発生機保守(冷暖房時1回ずつ、運転休止中の保守年1～2回、伝熱管洗浄年1回) ○エレベーター保守点検(毎日遠隔点検・無人、年4回点検整備) ○自動ドア保守(年4回) ●ばいじん測定(年2回) ●A重油地下タンク点検(年1回) ●消防設備保守点検等(年2回) ●環境維持管理及び測定(浮遊粉塵等測定、飲料水検査、貯水槽清掃、ネズミ等駆除、照度測定) ●し尿浄化槽維持管理(清掃年2回、維持管理年4回) ●自家用電気工作物保守(年6回、年1回) ○舞台演出装置保守(機構1回、照明1回、音響1回) 	業者委託により適切に保守管理を実施した。	○	◎
	植栽管理	施肥・剪定(低木 1,853 m ² 、年1回)、害虫駆除(年2回)、芝刈り(6,300 m ² 、年2回)除草(9,900 m ² 、年2回)	業者委託により適切に実施した。	○	◎
	警備	本館・工作館を夜間等機械警備	左記のとおり実施した。	○	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	小規模修繕	経年劣化により設備等の傷みが激しく、これに係る予算が制限されるため、緊急的に必要最小限度で対処。対処できないものは、予算要望による。	令和2年12月～3年7月まで外観と防水を中心に大規模計画修繕工事を行った。その費用の残額で館内部の経年劣化部分の修繕を30箇所にわたり行った。特に水道の漏水が疑われていたことについて、漏水箇所の発見と修繕を行い、上下水道料金が約1/3に減少した。	◎	◎
	法定点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●ばいじん測定(年2回) ●A重油地下タンク点検(年1回) ●消防設備保守点検等(年2回) ●環境維持管理及び測定(浮遊粉塵等測定、飲料水検査、貯水槽清掃、ネズミ等駆除、照度測定) ●し尿浄化槽維持管理(清掃年2回、維持管理年4回) 	業者委託により適切に実施した。	○	◎
運営業務	開館日・開館時間等	開館日:閉館日(毎週火曜日、月の末日、年末年始等)を除く毎日 開館時間:9:30～16:30	左記のとおり実施した。 ただし、R3.8.28まで、リニューアル工事のため休館(稼働率・58.2%:173日/297日)	○	○
	公共性・公平性の確保	紙媒体である「こどもの館だより」の配付を取りやめ、HP・SNSによる発信に移行	FB、ツイッターに加え、Lineを10月14日から開始した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	事業体系表を作成し、それに基づいて各事業を計画	大規模改修のため、4月～8月28日の間、休館していたため、その間の事業は休止。その間、動画発信や他施設への絵本箱の設置を実施。リニューアルオープン後は精力的に活動を実施	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	受付で来館者アンケート用紙を配架	アンケート用紙に記載された意見・希望に対しては迅速に対応	○	○
利用状況	利用者数	42,489人(R3.8.28よりリニューアルオープン) [前年度:40,784人] ※R2.12.7からリニューアル工事のため休館(H元:236,164人)	5カ月にわたりリニューアル工事のために休館したことに加え、コロナ禍対策として一部施設の利用制限を実施したことにより利用者数は伸び悩んだ。	○	○
	施設稼働率	58.2%(173日/297日) [前年度:70%208日/297日]	R3.8.28までリニューアル工事のため休館	○	○
収支状況	収支計画と実績	緊急修繕実施により支出が増加	施設及び来館者の安全対策の強化のため、必要なものから重点的に実施した。	○	○
	経費節減に向けた取組	入札・契約仕様書の見直しを図る。劣化の度合いが大きくなる設備等の更新について、予算要望して、経常経費への圧迫を解消する。	委託業務において、経費を節減することができた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営 体制	苦情要望等の対応体制・内容	来観者アンケートの意見・要望、電話等での苦情に対して迅速に対応するとともに、職場ミーティングで職員への周知徹底を図った。	苦情等に、迅速・適切に対応することができた。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害時等職員行動マニュアルの作成、避難・通報・消火訓練の実施	災害時等職員行動マニュアルを作成・配付し、緊急時の体制を整備した。防犯カメラの設置、職員の巡回等により、不審者対策の強化を継続した。その結果、不審者の出没はなかった。	○	◎
	県・関係機関との連携	桜山公園周辺の3館とイベント連携開催を進め、集客率を高める。	コロナ禍の影響により、イベントを開催できなかったが、4館館長会議により連携を密に行った。	◎	◎
	業務の再委託の状況	維持管理業務について、適正に業者を選定する。	入札、見積合わせ等により、適正に業者選定を行った。	○	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・令和3年度は、リニューアル工事のため、8月28日まで休館を余儀なくされたため、コロナ禍の影響とあいまって、利用者数が落ち込んだ。
- ・その中で、動画の配信や絵本の貸し出し等のコロナ禍に対応した新たな取り組みを積極的に展開したところである。
- ・来年度は、ウイズコロナ、ポストコロナを見据え、限られた予算・人員配置の中で、様々なアイデアの提案や工夫を凝らすことにより、館内の機能(利用用途の見直し・新たなイベントの企画等)をより充実させることによって、コロナ前の利用者数の回復を目指していくこととする。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部男女青少年課

施設名	こどもの館	現指定管理期間	令和2～4年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・限られた予算の中で、日常的な見回り業務を実施するほか、清掃や法定点検等を専門業者に委託し実施するなど、維持管理業務が適正に行われている。
- ・コロナ禍による施設利用制限実施等により、利用者は低迷したが、感染症対策など利用者の安全に配慮した各種事業が実施されており、大型児童館として適正な運営に努めている。
- ・高校生等を活用した事業の展開など、幼少期から青少年までの健全な成長を促す取組みが実施されている。
- ・民間企業との連携事業や寄附受領額増などは評価できる一方で、利用者増へ向けては、今後も利用者ニーズの把握に努め、ニーズに即した事業展開を図る必要がある。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・入札や契約業務で見直しを図るなど、経費削減に向けた努力が日常的になされている。
- ・HPやSNSでの発信強化に努めるなど、時代の変化に即した広報への取組みが実施されている。
- ・指定管理公募化を検討する状況において、維持管理業務や研修・各種事業など、改めて適正な業務内容を精査する必要がある。令和4年度は、こどもの館職員や関係者と意見交換を重ねるなど、仕様見直し等に取り組むこととしている。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目
	A	

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	県立山の学校	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	生徒・職員で定期的を実施し、清潔な環境を維持する	清掃日及び清掃担当に基づき計画的な清掃を実施、また専任職員の緊急雇用により集中的な清掃を実施できた	◎	◎
	設備保守管理	消防用設備点検は業者委託を継続する	隣接する森林林業技術センターと同日に点検することで契約金額の縮減を図った	○	◎
	植栽管理	生徒実習の中での実施を計画的に取り入れることにより維持管理に努める	生徒実習を中心として計画的に実施できた	◎	◎
	警備	舎監による夜間管理に加え、機械警備を業務委託する	舎監と委託警備業者で適切に管理できた	○	○
	小規模修繕	寮洗面所及び本館食堂の単水栓を自動水栓に取替え節水を行う	水栓の閉め忘れがなくなり節水が促進できた	◎	◎
	法定点検の実施	フロン排出抑制法対象機器の点検を実施	寮2階居室分を実施した	○	○
運営 業務	開館日・開館時間等	チャレンジ体験・冬の体験入学会・中学生対象「トライやる」チャレンジ体験を実施。また、保護者を交えて本校で学校説明を行う。	随時の学校見学、学校説明を行うことで広く周知できた	○	○
	公共性・公平性の確保	記者発表や広報活動により生徒を募集し、選考委員会を開催することにより適切に生徒を選考する。	記者発表等により広く生徒募集の周知ができ選考も厳正に行えた	○	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	生徒や学校の活性化のための支援プログラムを展開する。	コロナ禍の影響もあり実施時期の変更を柔軟に行い、様々な体験活動を通じてより社会性を身につけることができた	○	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	修了時に保護者へアンケート調査を実施する	保護者が成長を実感しており、今後の学校運営の参考とすることができた	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用 状況	利用者数	20名の定員を確保する [前年度:5人]	R1年度 15名入学(修了生 10名) R2年度 5名入学(修了生 3名) R3年度 6名入学(修了生 5名)	△	△
	施設稼働率	生徒の夏季休業中に県の他の施設からの見学や学校説明会会場として開放する	生徒休業日に講演会等を開催できた	○	○
収支 状況	収支計画と実績	前年度実績 R2 実績 収入 指定管理料 47,027 千円 支出 人件費 19,234 千円 支出 その他経費 27,793 千円	前年度実績 R3 実績 収入 指定管理料 33,819 千円 支出 人件費 22,493 千円 支出 その他経費 11,326 千円	○	◎
	経費節減に向けた取組	人件費、事務経費の節約に努める	出張は、公用車を活用することにより旅費を節約した	○	○
運営 体制	苦情要望等の対応体制・内容	修了式後アンケートを実施し、生徒や保護者のニーズを探る	アンケート結果を参考に生徒募集等に活用した	○	◎
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアル点検により問題点を探る	避難訓練、交通安全講習等の実施により危機管理意識向上を図った	○	◎
	県・関係機関との連携	兵庫教育大学学生ボランティア、教職員の年次研修等で人的交流を継続する	大学生とのスポーツ交流を通じてコミュニケーションの幅が広がった	○	◎
	業務の再委託の状況	—	—	—	—

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設管理については、概ね良好に実施できている。
 利用者が近年減少する中で令和3年度は、退学者が1名に止まり、十分な指導の成果が見られた。
 今後は、潜在的な利用希望者へインターネットを活用した広報活動等が必要と考える。

令和3年度 総合評価シート

評価者：県民生活部男女青少年課

施設名	山の学校	現指定管理期間	令和2～4年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・限られた予算の中で、施設の維持管理・運営が、適正に行われている。
- ・地域貢献・交流プログラムとして、劇団員による指導や食育プログラムなど、生徒の表現力や協調性、社会性をのばすカリキュラムの提供に努めている。
- ・地域ボランティア活動を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上や自己肯定感を高める機会の提供に努めている。
- ・保護者アンケートの結果、山の学校修了後、入学時と比べて「とても成長した」との回答を全回答者より得られた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・安全点検や清掃、植栽管理等への取組みが定期的・計画的に実施されており、今後も継続する必要がある。
- ・保護者アンケートの結果、全回答者より、「山の学校に入学させて良かった」との回答が得られているのにも関わらず、定員割れがつづいている状況のため、入学者数獲得に向けたさらなる取り組みが必要である。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目
	A	

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である